

RX-78

V O P E R A T I O N S

GREAT MECHANICS
EXTRA SPECIAL



モビルスーツ全集⑤
RX-78ガンダム&
V作戦BOOK

RX-78

ガンダム& V作戦BOOK

地球連邦軍の機動戦術モビルスーツたち

双葉社MOOK

モビルスーツ全集⑤ RX-78ガンダム&V作戦BOOK

双葉社

2刷発行：2012年10月

定価：1,440円

雑誌6992-42
Printed in Japan © Futabasha 2012



9784575464658



1929476014009

ISBN978-4-575-46465-8
C9476 Y1400E

Contents

008 Introduction

014 RX系 カラー設定画&イラストラインアップ

014 RX-78ガンダム小史

018 V作戦により作られた兵器の戦場

RX-78

022 ガンダム系

030 各種機体解説

RX-79-2ガンダム RX-78-1プロトタイプガンダム
RX-78-3G-3ガンダム RX-78NT-1アレックス
FA-78-1フルアーマーガンダム FA-78-2ヘビーガンダム

032 RXシリーズを拡張する サブメカニクス

RX-79 [G]

040 陸戦型ガンダム系

各種機体解説

RX-79 [G]陸戦型ガンダム RX-79BD-1ブルーディスティニー (1号機)

046 連邦軍支援モビルスーツの系譜

各種機体解説

RX-77-2ガンキャモン RX-77Dガンキャモン量産型
RX-77-3ガンキャモン量産型 RX-77-4ガンキャモン1
RX-77-1AガンキャモンA RX-75ガンタンク
RX-75ガンタンク量産型 RMV-1ガンタンク1
RTX-440陸戦輸送量産ガンタンク
RB-79ボール RB-79KボールK型 RB-78CボールC型

064 ガンダム開発計画のガンダムたち

各種機体解説

RX-79GP01ガンダム試作1号機 RX-78GP02Aガンダム (作中機)
RX-79GP03Sガンダム試作3号機ステイメン
RX-78GP04ガンダム試作4号機

074 ヤマザキ軍曹のプラモバカー代 出張版

078 RXシリーズの選彩

082 V作戦のモビルスーツ 武器戦談

086 MATCH UP THE対決

090 RX-78ガンダムのメカニズム

094 連邦軍の戦地・戦術 V作戦とホワイトベース

098 V作戦のモビルスーツ 軍用機成経典

102 MS設定資料

126 RXシリーズバリエーション



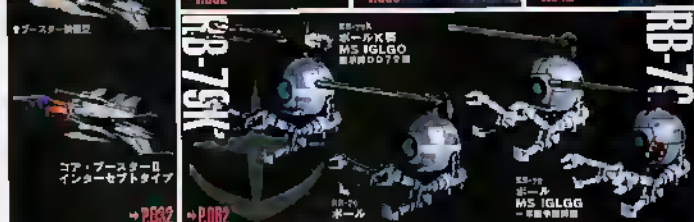
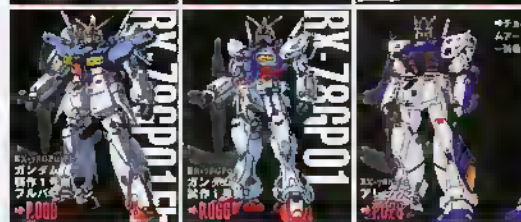
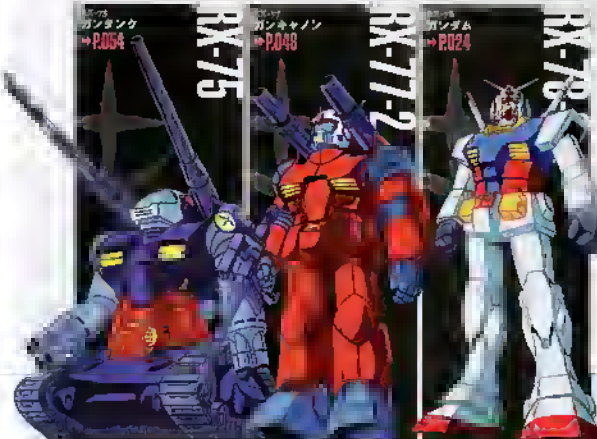




カラー設定画 & イラストラインアップ

『機動戦士ガンダム』シリーズに登場したRX系のモビルスーツ

この項では、『機動戦士ガンダム』とそれに関連している映像作品OVAや雑誌企画、ゲームなどに登場した、RX系ガンダムやV作戦に関係するモビルスーツやメカのカラ設定画とカラーイラストを掲載する。本誌で機動戦士ガンダムを愛するものには、ページをアイコで示している。





歴史的背景① モビルスーツ・ザクの登場と RX計画からV作戦へ

宇宙世紀0079年1月1日、突然
ジオン公国軍が地球連邦軍と同盟し連邦
軍艦隊に攻撃を開始する。後に一年戦争
争といわれる戦いの開始だ。

当初の一連の戦いは「連開戦後」と呼ばれ、地球連邦軍の本拠地、ジャ
ブローにスベールコロニーを落とすやう
とするジオン公国軍と、それを阻止す
る連邦軍との戦いが繰り返された。
全戦数十キロに及ぶスベールコロ
ニーを、地球の衛星軌道上から落とす
として進める。という作戦は現代技術
で進められた。この大上段に見える「コロニー
落とし」を隠れんとして地球連邦軍の
主力艦隊の迎撃は、ジオン公国軍の
欲求。しかとの結果は、地球連邦軍
艦隊が一方的に敗退するということだ
つた。ただ、コロニー落とし作戦自体
も目標への途中がかなわず、オースト
ラリア大陸に墜ちるといって中途半端
な結果に終わった。ジオン公国軍にと
って、戦術的勝利を得たものの、戦略的
には必ずしも勝利とはいえない結果で
あった。

これを受けてジオン公国軍は同月13
日に、サビムにおいて新大規模コロニー
落とし作戦を企図する。だが、作戦

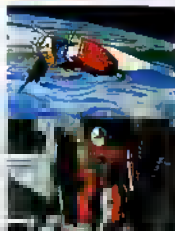
自体は失敗。この空襲で地球連邦軍艦
隊との間に、大規模な武力衝突が回避さ
れた。いわゆるルーク作戦である。
この戦いは、戦争の帰趨を決する重要
性を持っており、地球連邦軍は投入
できず連邦軍の艦隊をもつて勝った
が、またまた敗れて大敗に陥るジオン公
国軍艦隊に大敗北を喫した。

モビルスーツによって 変貌を遂げた戦場

この地球連邦軍の一方的敗北（空襲）
にはジオン公国軍側の損害も甚大だ。こ
の要因こそが、ジオン公国軍の新
兵器、モビルスーツ・ザクの存在であ
つた。この新兵兵器「ジオン公国軍」
として、地球連邦軍との圧倒的な国力差を翻
かるとなく、金銭戦争へ突入させた
要因の一つがたつた。

また、もう一つの背景としてレディ
ーナの電子技術がほぼ無効化されてレ
ディーナの電子技術がほぼ無効化されて
ミノフスキー効果の活用が利用できな
げられた。モビルスーツは、近接戦闘
が主になるミノフスキー効果下でい
う環境での戦いにおいて、最も兵器
であった。一方この時点で、地球
連邦軍はミノフスキー効果には慣
つていない。その影響について述
小詳細を述べていた。

モビルスーツ・ザクと、それを中心
とした戦術体系を築き上げたジオン公
国軍は、驚異的な作戦行動で戦争を短



は、ミノフスキー効果下を飛ぶ物理

学者、ジョン・ロフ、Y・ミノフスキー博士
がジオン公国軍に地球連邦軍に劣る
たにも、大々的に活用しているところ
なっている。これは、地球連邦軍に取って手遅
な状況となつた。

その開発方針は、まず低価格型、中
価格型、高価格型という3つのコンセ
プトで機体を製作し、その設計をベース
に実際の戦況にフィットした、生産や
整備の上でもっとも適切な、普及型の
タイプを開発するという方針だ。
まず技術の開発をトータルした上
で、開発を進めようというスタイルだ。

本来、時間も金もかかる、おれもそれ
時下の現状に思いついてはいないな
いが、そこをこの時期に作り進めら
なければ、ザクと対決出来なくなるで
あろうと推測。その上から、到底
不可能でないと考えられ、そこ
いった無敵で、一連の取り組み、
まさに奇水の舞であった。



RX-78 ガンダム 小史

RX-78ガンダム
どのようにして
生み出されたのか

期間のうちに開発を急がせざるを得な
た。だが、ルーク戦後で廃止となつた
地球連邦軍のモビル兵器、特殊部隊
により救出され、その内情を暴露した
「ジオンに兵士」の活劇によって、
地球連邦軍が窮乏に陥っていた。
これに對し、ジオン公国軍は2月に
地球連邦軍に攻撃を開始。地球の約半分を
自らの勢力圏として取り、これ
以後、戦線は地球表面に広がっていき
た。これは、裏を返せば連邦軍が保有する
通常の兵器でも、モビルスーツに何と
対抗できないことを露呈する。し
かし、それでもモビルスーツ相手では

わずか4カ月で完成した 脅威のモビルスーツたち！

そして、このV作戦の最中として
RX-78、RX-77、78のRXシリーズの各
機体が完成することになった。ジオン公
国軍のモビルスーツと比較して、RX
シリーズの性能は大きく異なる。あ
つた。コア・プロ・システム
の活用。これは従来の生存性の向上を
企図していたが、蓋の設計によりリ
フトウェアを最適化する数値型コン
ピュータの搭載という狙いもまた、大
きい。つまり、総動員データを高度に持
ち運ぶためのシステムだ。

モビルスーツ技術がでなく、運用
法や戦術のノウハウもない地球連邦軍
が、迎撃前にジオン公国軍並みの実力
でメカを身に付けるには、必要条
件が揃ってはいない。その上、必要
不可欠な要素ともいえるのだった。つ
まり、戦線には投入された時の兵
器としての質もまた、考えていたとい
う事だ。

もう一つは高い防衛性能の確保であ
る。RXシリーズに搭載された特殊材
のルーク・チタニウム合金は、戦車な
の1.2倍と1.5倍のザク・シン
ガンに耐え、近距離での射撃でも
貫通できない性能を確保していた。実
際、RXシリーズが、一年戦争最期の機
体と、評価されることになったのは、こ

戦力の指標は大きく、連邦軍にとっ
てモビルスーツの配備は勝利のため
にも必要条件であり、急務であつた。
かくして宇宙世紀0079年4月1
日、地球連邦軍のモビルスーツ開発計
画である「V作戦」が発動されること
になる。

歴史的背景② まさに勝利への作戦 であったV作戦

V作戦とは、作戦が急がっていた
の、要領のところ、作戦という

の経緯によるところが大きい。これは
戦況の急変の保存（つまり戦況に生じる
る）に不可欠といえるものだった。実
際、生産型のRGM-79で、コスト
のかかるこの技術の活用と開発も
ある。だが、一機開発での開発も
あることから、コストと生産性の問
題がクリアできれば、機體に投入す
ることも考えられていたのだ。

最終は先ず「V」兵器の活用だ。
この分野は、地球連邦軍の技術がジオ
ン公国軍を上回っていた。故に早い技
術開発の1つであった。その威力に
対しては、多くの兵器開発の
主眼であるところから明らかだ。
それはモビルスーツが持つ、まさ
に「V」にまで小型化し、実用性をこ
に成功したことは大きかった。艦
隊の能力は、ライフルは艦隊の
主眼なみの性能を要した。

そして、RX-78シリーズは、V作
戦の開始からわずか4カ月の宇宙世
紀0079年の1月に、ひとりの完
成している。その年の秋にはすでに
に生産型であるRGM-79の開発も終
了。大規模な戦い、各地の戦線も終
まれている。その後の、戦線も終
了。オデッサ、ソロモン、ア・パ
ン、クワアフリカなどの戦線も終
了。地球連邦軍の戦況は、この
一連の戦いによって、明らかに
な事柄は、いまだ説明するまでもない
だろう。

一年戦争史上最強のモビルスーツとも言われるRX-78ガ
ンダム。性能諸元的にはジオン公国軍のMS-14ゲルグ
グの方が優れているとも言われるが、その戦果や戦場で生
まれた数々の伝説史で踏まえ、RX-78ガンダムこそが
戦線と言ふに相応しいだろう。そしてその生産型である
RGM-79ジムの登場は、一年戦争終結の大きな原動力にな
ったことはよく知られていることである。また、その技
術がその後のモビルスーツ開発に与えた影響も大きいと
言える。では、このRX-78ガンダムとはどういった機体な
のだろうか。その歴史的背景を振り返ってみよう。

V作戦により作られた兵器の戦場



ジオン公国によって奪われた地球における勢力圏を取り戻し、その勢いでジオン公国軍との戦争に勝つ。そのためのプラン・V作戦のもとに作られたRXシリーズをはじめとした地球連邦軍の兵器の数々は、見事に目的を達することになる。ではここで、どのような戦いを見せたのだろうか。V作戦兵器の一年戦争を振り返ってみよう。



□ 北米

ニューベークやウォッシュフィールドを拠点としたサンパ・デルマの部隊は、ホワイトベース軍のRX-78シリーズと戦った。戦後、サンパ・デルマは北米に留まり、戦後処理に当たった。

□ ユーラシア

MS-09B グラハムはMS-06 ザクⅡと戦った。ザクⅡは、ザクⅡの改良型であるザクⅡCと戦った。戦後、ザクⅡはユーラシアに留まり、戦後処理に当たった。

□ ペルファスト

北米として活動していたサンパ・デルマの部隊は、ホワイトベース軍のRX-78シリーズと戦った。戦後、サンパ・デルマは北米に留まり、戦後処理に当たった。

□ ジャブロー

地球連邦軍の艦隊司令部は、大規模な空襲を受けた。戦後、艦隊司令部はジャブローに移動し、戦後処理に当たった。

□ ソロモン

グラナダ、ア・バオア・クーと戦ったジオン公国軍の宇宙軍は、ソロモンに移動し、戦後処理に当たった。

□ ア・バオア・クー

ジオン公国軍の宇宙軍は、ア・バオア・クーに移動し、戦後処理に当たった。

□ 南米

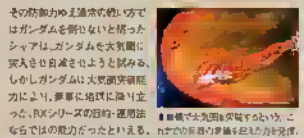
ホワイトベース軍は、南米に移動し、戦後処理に当たった。



衛星軌道

地球の重力に引かれ大気圏に突入する危険があるため、通常は戦艦が行く場所だが、RXシリーズはその危険地帯でも戦艦を行き来している。

U.C.0079.9

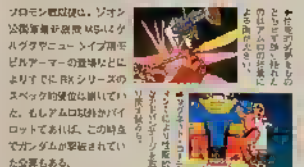


その防衛力と機動性により、ガンダムは宇宙空間に突入し、大気圏に突入する危険地帯でも戦艦を行き来している。RXシリーズは、その危険地帯でも戦艦を行き来している。

U.C.0083.11 コロニー落下阻止作戦

コロニー落下阻止作戦は、コロニー落下阻止作戦の一環として行われた。コロニー落下阻止作戦は、コロニー落下阻止作戦の一環として行われた。

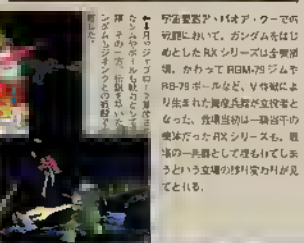
U.C.0079.12



ア・バオア・クー

ジオン公国軍との戦いが行われたア・バオア・クーでは、通常は戦艦が行く場所だが、RXシリーズは、その危険地帯でも戦艦を行き来している。

U.C.0079.12.31 ア・バオア・クー陥落



サイド7

ジャブローからテストのために機動隊に送られたRXシリーズとホワイトベースが、ジオン公国軍のモビルスーツと戦った。これは宇宙世紀史上初となるモビルスーツ同士の戦いとなった。

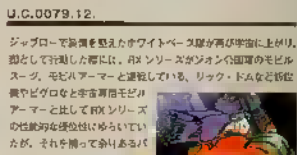
U.C.0079.9.18 サイド7遭遇戦

平均的な質量とパイロット技能を持つ2機のMS-06 ザクⅡが、常人の歩みから初めて暴走したRX-78 ガンダムによって撃破された。ザク・マシンガンはガンダムの装甲に好ましくはたかたかなく、一方のガンダムはビーム・リバーのほとんどでザクを倒した。しかし、戦後によってRXシリーズの性能が向上し、バグが失われてしまっている。



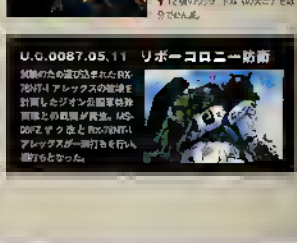
U.C.0079.12

ジャブローで戦ったホワイトベース隊が再び宇宙に上がり、側面から行進した際には、RXシリーズがジオン公国軍のモビルスーツと戦った。戦後、ジオン公国軍は、ジャブローに移動し、戦後処理に当たった。



U.C.0087.05.11 リポココロニー防衛

リポココロニー防衛は、リポココロニー防衛の一環として行われた。リポココロニー防衛は、リポココロニー防衛の一環として行われた。





GUNDAM 05

RX-78-5

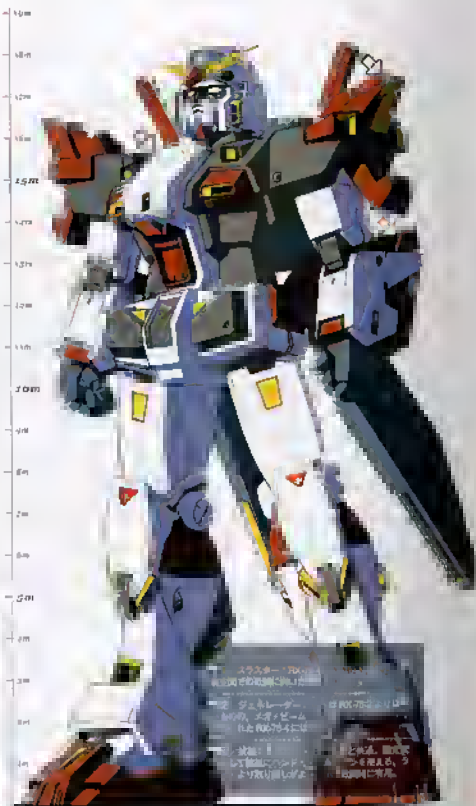
ガンダム5号機

5p.4

全高18.0m 全重量80.5t
 ジェネレーター出力 1,400kW ③スラスター総出力 70,500kg
 センサー-首尾目 8,190m ③視界12度 ミサ、テクニウム合金
 ③武装 頭部160mm砲、ハンド・ビーム・ランダム、ビーム・サーベル×2、
 ハイパー・バズーカ、ハイパー・ビーム・ライフル、他

宇宙要塞攻略に向けた
 大型ガトリング砲を装備

RX-78-2をベースにしたキャブローで開発された機体。RX-78-4（ガンダム4号機）とは、ほぼ同時期といえる。行方不明となり口喧嘩とされる。そのため、つぎの形状など細かい部分で、カラーリングなどにはあるが、基本的にはほぼ4号機と同じ外観である。



スペース的にも同等だが、ジェネレーター出力はRX-78-4の方がやや高い。もともと両機は同じ仕様だった。その後RX-78-4にはメガ・ビーム・ランチャー装備のための改造が行われたため、スペースに差が生じた。よく、開発はRX-78-5の方が先だったといわれるが、RX-78-4の方が後々まで手を加え続けられ最終的な型となった、とこちえなほうは事実に近いだろう。

なお、RX-78-5は後述の大型のガトリング砲がメインで運用されている。これは、拠点攻略時や機群で相手の行動を封じ、援護支援をうけるという使い方に適している。また、機群の要として初速の高さや口徑により、限定的なメガ・ビーム・ランチャーとしての能力も十分にある。この時代のビーム・ライフルは弾数が多くはなかったため、それを補完する大型の実体弾兵器として有効に機能したはずだ。

大型ガトリング砲は下位互換?

大型ガトリング砲とメガ・ビーム・ランチャーではまったく性能が異なるので、RX-78-4におけるメガ・ビーム・ランチャーの機体に変換した。代わりに頭部センサーとは互換性がない。RX-78-4のメガ・ビーム・ランチャーは、その圧倒的な火力で宇宙の戦況に大きな影響を及ぼした。RX-78-5の大型ガトリング砲は、本文中にもあきらまに機体の運用などを行うといったように、別の目的をもって開発されていたはずである。

★設定画はP125へ



GUNDAM 04

RX-78-4

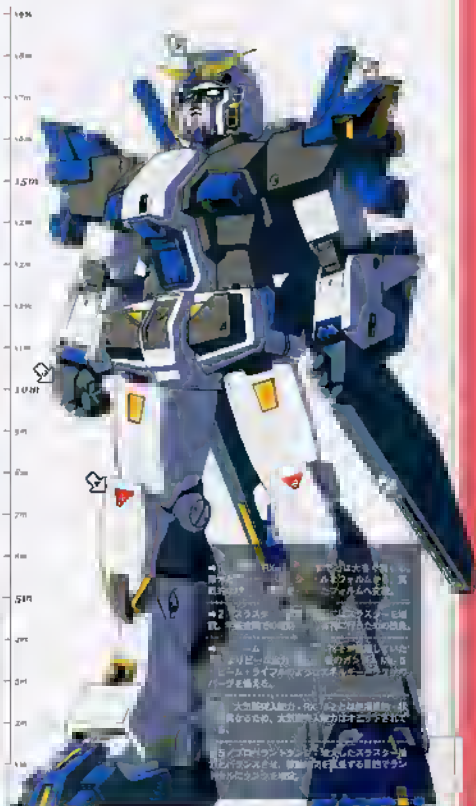
ガンダム4号機

5p.4

全高18.0m 全重量80.2t (ビーム・ランチャー装備時90.5t)
 ジェネレーター出力 1,350kW ③スラスター総出力 70,500kg
 センサー-首尾目 8,190m ③視界12度 ミサ、テクニウム合金
 ③武装 頭部160mm砲、ハンド・ビーム・ランダム、ビーム・サーベル×2、
 ハイパー・バズーカ、ハイパー・ビーム・ライフル、
 メカ・ヒール・ランチャー (設定のみ)

宇宙空間での戦闘に
 最適化されたRX-78

RX-78-1から3までのモデルは、近距離・白兵戦を主とするレンジで対モビルスーツ戦闘中心にこなすというコンセプトを持っていた。基本的には万能とも言えるプレイングな機体特性を持っていた。しかし、RX-78-4とRX-78-5は、そこからの一歩踏み出したコンセプトにも設計され



たモデルといえる。

具体的にいうと、機体の場が宇宙に移り、それにあわせて宇宙を面やジオン公団軍の宇宙要塞での戦闘に主眼を置いたRX-78-4と、その設計思想に備えたRX-78-5 (および5) の要だろ。

そのため、RX-78-4では機体各部に中・小型のスラスターを配置し、次元移動能力を高めるほか、ハンドセルというプロペラントタンクを装備し、稼働時間そのものも延長させている。また、兵装としてメガ・ビーム・ランチャーという高出力をメガ・ビーム・ランチャーと同等の出力で、また、機体投入には至らなかった。また、機体投入には至らなかった。また、機体投入には至らなかった。

RX-78-4の武装メガ・ビーム・ランチャー

RX-78-4のために開発された武器の中でも、もっとも特徴的な武器であったメガ・ビーム・ランチャー (メガ・ビーム・ランチャーとも呼ばれる)。取そのものの大きさが全長約15メートルという巨大な機体だが、テストの途中で機体投入はできていないとされる。エネルギー・CAP搭載が実現で、メガ・ビーム・ランチャーを十分に行う事ができたのがその理由 (制空力的な要も、この機体のためといわれる)。開発は遅れていたが、機体投入などで活躍したはずだ。

★設定画はP125へ

GUNDAM 7th

ガンダム7号機

5600

●全高 18.3m ●全重量 747t
 ●ジェネレータ出力 1,670kW ●スラスター推力 70,800kg
 ●ランチャー 実効射程 6,130m ●機動性 高 ●ホビークラウドを必要としない
 ●主武器 60mmバズーカ砲×2 ビーム・マシーナ×2 ギーム・ライフル、グレネードランチャー



機体・武装・性能

機体バリエーション



機体中に通じる多岐の内部武装。機体内部に収納されたガンダムと戦う必要のない戦闘時にも活用可能。

ビーム・サーベル

アウリウスやその他のガンダムシリーズで採用しているビーム・サーベルの改良型ではない。

ビーム・ライフル

ガンダム4号機やガンダム5号機、ガンダム6号機にも採用されている。高威力、高射速、高命中の3つの長所を兼ね備えている。



シールド

機体は約1.7mのシールドと、高威力、高射速、高命中の3つの長所を兼ね備えている。高威力、高射速、高命中の3つの長所を兼ね備えている。



『ガンダム7号機』としての武装は、ビーム・ライフルやビーム・サーベルなど非常にオーソドックスな武装が用意されている。これ以上の武装がなかった場合は「フルアーマーガンダム7号機」としてオプションを選択した上で仕様にあった。というのが基本だ。

● 高威力、高射速、高命中の3つの長所を兼ね備えている。高威力、高射速、高命中の3つの長所を兼ね備えている。

● ジェネレータ出力 1,670kW で、スラスター推力 70,800kg まででシリーズの中で最も高い。

● マシンガン砲。機体内部には機体内部に収納されたガンダムと戦う必要のない戦闘時にも活用可能。

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

様々な面で「早すぎた」ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

ベーパーガンダム

クローズアップポイント



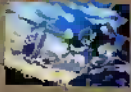
→1 機體
ガンダムと似たような機體で、
からムネとヒゲのデザインが、
と機體デザインと似たような機體



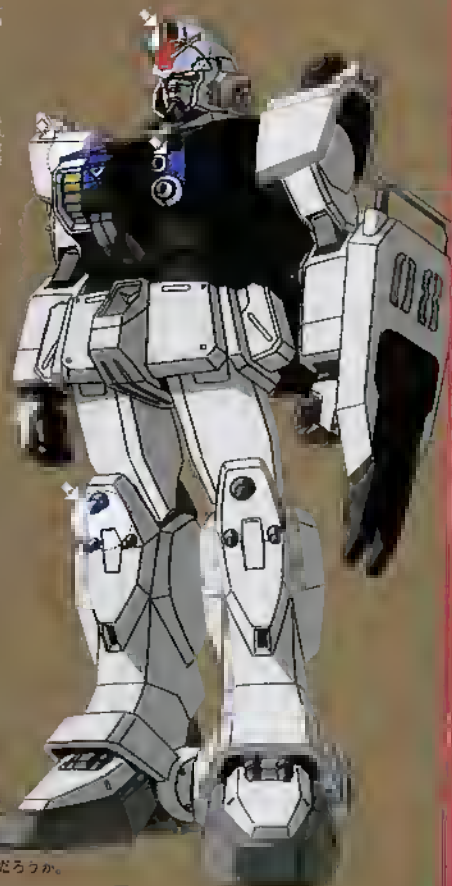
→2 コクピット
「コクピット」システムを取り入れ
た、コクピットのデザインは、
コクピットのデザインは、
コクピットのデザインは、



→3 機體
ガンダムとは異なり、
ガンダムとは異なり、
ガンダムとは異なり、



→4 機體
機體はガンダムと異なり、
機體はガンダムと異なり、
機體はガンダムと異なり、



戦況逆転に寄与した 陸戦用MS

ジオン公国軍のモビルスーツ。サウの前に、
不利な戦いを続けてきた連邦軍艦隊にとって
救世主と言ってもよい活躍をしたのが
RX-79[G] 陸戦型ガンダムだ。
この機体はどのような経緯で誕生してきたのだろうか。

陸上戦用として 急遽開発された新生機

ジオン公国軍のモビルスーツに対抗す
るための機體は、
機體の開発は、
機體の開発は、

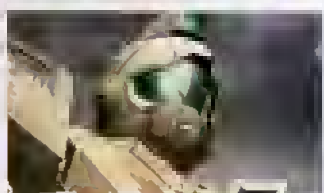
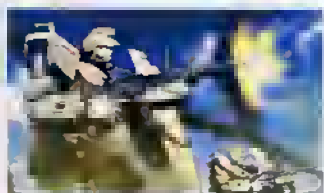
この機體は、
機體の開発は、
機體の開発は、

【連邦軍陸戦用MSの展開】

RX-79[G] 陸戦型ガンダムの製造の後、
その生産ライン
を利用して製造された、
機體の開発は、

やはり、
機體の開発は、
機體の開発は、

製造ラインが同一のため、
機體の開発は、
機體の開発は、



から、
機體の開発は、
機體の開発は、

機體の開発は、
機體の開発は、
機體の開発は、

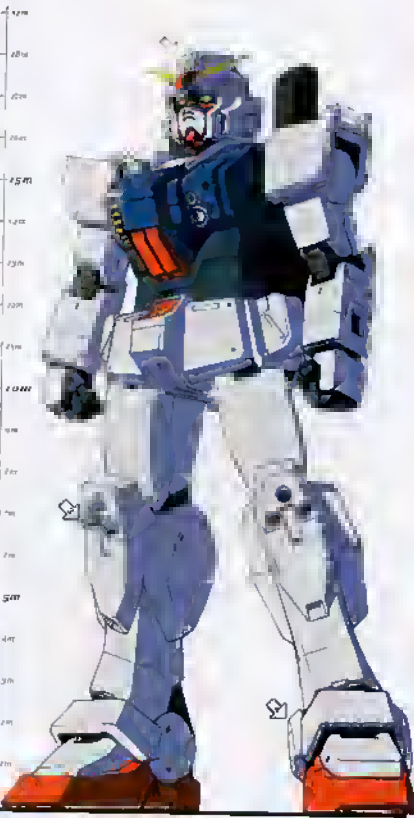
GUNDAM GROUND TYPE

■ RX-79[G]

陸戦型ガンダム

50mm

全高18.0m 全重量52,000kg 全装甲11mm 全装甲厚270mm 全装甲厚270mm 出力1,200kW
 全装甲厚270mm 出力1,200kW 全装甲厚270mm 出力1,200kW
 全装甲厚270mm 出力1,200kW 全装甲厚270mm 出力1,200kW



主要パイロット

シロー・アマダ

地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

武器・装備

100mmマシンガン

この武器は、シロー・アマダが、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

ビーム・ライフル

この武器は、シロー・アマダが、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

180mmキャノン

この武器は、シロー・アマダが、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

ウェポン・ラック

この武器は、シロー・アマダが、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

この武器は、シロー・アマダが、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

スペック比較

機体	ガンダム	陸戦型ガンダム
全高	18.0m	18.0m
全重量	52,000kg	52,000kg
全装甲	11mm	11mm
全装甲厚	270mm	270mm
出力	1,200kW	1,200kW

- 1. 機体は、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。
- 2. 機体は、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。
- 3. 機体は、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。
- 4. 機体は、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

余剰パーツを流用して開発された陸戦用MS

GM・79ジムの配属前に、陸軍の要請に応じて開発されたのがRX-79[G]。陸戦型ガンダム。本機は、RX-79ガンダムの余剰部品を利用して誕生した。これは、基本的にRX-79の部品流用で構成された機体であった。

とはいえ、ジェネレーターや部品などは、どれも高性能で、通常の運用に十分耐えられた。また、レオナルド・ガンダムの余剰部品を利用して誕生した。これは、基本的にRX-79の部品流用で構成された機体であった。

また、機体は、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

陸戦型ガンダムの実戦運用

連邦軍第100機動群に配属して、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。



この武器は、シロー・アマダが、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

試作機は、機体は、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

また、機体は、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。

また1機の現地改修型・ガンダムEz8

本家ならば機体は、地球連邦軍第100機動群司令官。シロー・アマダは、地球連邦軍第100機動群司令官。



設定画はP114へ

(RX-75系とRB-79系)

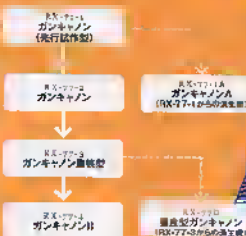


ガンタクの後継といえるロトは、オフロードロング・キャノンを装備で小型の可変モデルスーツ。U.C.0096年に選邦正の海軍戦艦研究所「サナリィ」機庫に開発した。攻撃能力は小型でも十分。18mクラスのモデルスーツを撃破する。後に不慮をベースにRXR-44ガンタクR-44が開発されている。



(RX-77系)

研究もされてい
 ないはず。オッ
 尊敬の置が、誠
 だP87のオッが
 一人のオッが
 77.4%のオッが
 研究もされてい
 ないはず。オッ
 尊敬の置が、誠
 だP87のオッが
 一人のオッが
 77.4%のオッが



地球連邦軍の砲撃型MSは、
どのような思想の下、開発されたのか

GUNCANNON A

■ R.X-77-1A

ガンキャノンA

Spec

全機体高 17.5m 全機体質量 51.0t 全生産機数 7201
 ①ジェネレーター出力 1,200MW ②スラスター・駆動力 51,500hp
 ③センサー・視野半径 8,000m ④装甲材質 アルミ・チタニウム合金
 ⑤主武装1 キャンオン砲×2 ヒール・ライフル、副武装バズランチャーV2、3連装サイロダッグ

運動性能、機動力を下げずに
重装甲化を遂げた実験機

R.X-77系の試作機として開発された
バリエーション1つ。
機体開発のコンセプトは、R.X-77
の2重装甲化し、それに伴う重量増
による運動性能の低下を抑える、とい
う相反した条件のもと、いかに最適と
せるかを模索し、実験的形態の最終機
体であった。ある意味後のF.A.78、

1フルアーマーガンダムのような増加
装甲ユニットの先駆けという考え方も
出来るだろう。

機体の基本構造をR.X-77、2
と大きく変わっていないが、胸腕、
腕部、肩部分など、増加装甲が加えら
れている。完成した本機サイドAに送
られる。倍々機体と共にラスト運用が終
わられていた。だが、ジオン公国軍の
フルメル機による襲撃時に破壊され
失われている。

本機のR.X-77-1Aという機体型
番から、R.X-77系として最初に先行
試作されたR.X-77-1との関係が推
測され、開発を改修したのが本機なの
ではないかと思われる。しかしR.X-
77-1も、R.X-77-1A同様、サイ
ドAにおいて破壊されてしまい、機体
の出力や整備、修理、改造などの資料
も失われており、同様の関係に終
わって不明で、今のところ推測の範疇
を出ていない。



- ① 実験機ガンキャノン2門を運用するためのガンキャノンと改称された。またヒール・ライフルの運用が可能なものも開発された。
- ② 機体は17.5mの高さで、全機体質量は51.0tと推定されている。また、機体は17.5mの高さで、全機体質量は51.0tと推定されている。
- ③ 機体は17.5mの高さで、全機体質量は51.0tと推定されている。また、機体は17.5mの高さで、全機体質量は51.0tと推定されている。
- ④ 機体は17.5mの高さで、全機体質量は51.0tと推定されている。また、機体は17.5mの高さで、全機体質量は51.0tと推定されている。

GUNCANNON II

■ R.X-77-4

ガンキャノンII

Spec

全機体高 18.0m 全機体質量 52.7t
 ①ジェネレーター出力 1,200MW ②スラスター・駆動力 51,500hp
 ③センサー・視野半径 8,000m ④装甲材質 アルミ・チタニウム合金
 ⑤主武装1 キャンオン砲×2 ヒール・ライフル、副武装バズランチャーV2、3連装サイロダッグ

ビーム・キャノンを搭載した
R.X-77系の最終進化タイプ

ガンキャノン重装甲型をベースにした
強化型。運動面が真逆なビーム・キャ
ノニア・ペリスで開発された。試作機が
実験参加したともいわれている。

最大の特徴は、両肩の大型の砲式キャ
ノン砲2門から、右肩の砲式キャ
ノン砲1門に変更になったことだ。ビ
ーム・キャノンの搭載については、ガ

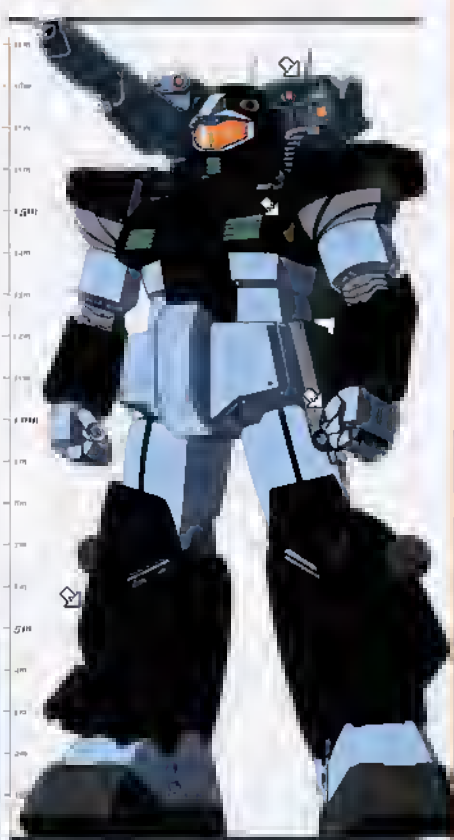
ンキャノン重装甲型と試験されたこと
があったが、本機はビーム兵器の運用を
最初から考慮しているのが特徴だ。出
力的には1門になったことで、機動力
になったと思われる。

一方、左肩部には多目的格闘用推進シ
ステムが新設された。キャノン砲が1
門減ったというだけでなく、砲式の播
散器や本体の弾薬も排除され、より
設計に余裕がはいることから、大型
スラスター機関の搭載をランドセルを後

備し、その排気によって推進距離のジャ
ンプ飛行が可能となっている。

ビーム兵器の運用で、本機は、大
きな機動力として期待されていた。しか
し、先に述べた実験記録も試験機の不
調に移ったとするもので、ロールア
ウトが期待された、と語られるため確
かなものではない。

いずれにせよ、量産されるに移った
本機だが、その技術面と巨匠・
キャノンIIの開発に活かされた。



- ① 両肩に搭載された多目的格闘用推進システム。これにより推進距離が大幅に伸び、高速な移動を、ビーム・キャノンで行うことができた。
- ② 機体は、両肩に搭載された多目的格闘用推進システムと、右肩に搭載された大型の砲式キャノン砲1門とを備えている。また、機体は18.0mの高さで、全機体質量は52.7tと推定されている。
- ③ 機体は18.0mの高さで、全機体質量は52.7tと推定されている。また、機体は18.0mの高さで、全機体質量は52.7tと推定されている。
- ④ 機体は18.0mの高さで、全機体質量は52.7tと推定されている。また、機体は18.0mの高さで、全機体質量は52.7tと推定されている。



GUNTANK II

■ R.M.V. I

ガンタンクⅡ

Spec

全長 12.0m 全高 5.0m
 主エンジン出力 211kW
 主武装 4連装ミサイルランチャー×2、4連装ロケットランチャー×2
 副武装 12連装ミサイルランチャー×2、60mm機関砲

戦車や自走砲の運用を知った
 原点回帰ともいえる戦艦車両
 一年戦争末期、RX-75の戦車や自走砲としての運用が目についた。連邦軍戦車に配備した機体。ガンタンクという名称は残っているが、モビルスーツとしての機能はすべて取り払われ、従来の戦車と同様である。移動砲台という性格の機体である。
 その主眼は火力の強化で、RX-75

でいう主眼部に搭載された主砲は、ヤンキー砲よりも運用能力を向上させた。120mmライフル砲を装備する。右側部には4連装ロケットランチャー、左側部には4連装ミサイルランチャー。さらに機体下部の乗組員用ミサイル発射口は、それぞれ装備されている。ジェネレーター出力が大幅に上げられ、機体下部の構造も見直されている。キャタビニ側面上部が装用時に覆われる。駆動部の節制は高められている。機体

的にはモビルスーツ的な要素を盛り込むと、開発は一年戦争の末に入っていたが、機体は戦艦だった。それでも、戦艦全地帯で起こった移動や砲撃などに使われていた。また機体下部の運用用として用いられ、基地や砲台の運用用としても用いられた。時代はモビルスーツ全盛期に向かっていた。主砲はリニア型で、向かって右。主砲はリニア型で、向かって右。

- 1 機体上部に搭載された120mmライフル砲。前部（ライフル）部は中口径の機関砲や機関砲と対峙し、後部は高口径の機関砲と対峙する。120mmライフル砲は、この機体では初めて搭載された。
- 2 機体上部のロケットランチャー。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。
- 3 ロケットランチャーと対峙する。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。
- 4 ガンタンクⅡは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。

◆ 設定画はP123へ



GUNTANK MASS PRODUCE TYPE

■ RX-75

ガンタンク量産型

全長 12.0m 全高 5.0m
 主エンジン出力 211kW 主エンジン出力 6,000m
 主武装 4連装ミサイルランチャー×2、4連装ロケットランチャー×2
 副武装 12連装ミサイルランチャー×2、60mm機関砲

ガンタンクをベースにして
 生産性向上を図った量産型
 一年戦争末期、RX-75の戦車や自走砲としての運用が目についた。連邦軍戦車に配備した機体。ガンタンクという名称は残っているが、モビルスーツとしての機能はすべて取り払われ、従来の戦車と同様である。移動砲台という性格の機体である。その主眼は火力の強化で、RX-75を

でいう主眼部に搭載された主砲は、ヤンキー砲よりも運用能力を向上させた。120mmライフル砲を装備する。右側部には4連装ロケットランチャー、左側部には4連装ミサイルランチャー。さらに機体下部の乗組員用ミサイル発射口は、それぞれ装備されている。ジェネレーター出力が大幅に上げられ、機体下部の構造も見直されている。キャタビニ側面上部が装用時に覆われる。駆動部の節制は高められている。機体

的にはモビルスーツ的な要素を盛り込むと、開発は一年戦争の末に入っていたが、機体は戦艦だった。それでも、戦艦全地帯で起こった移動や砲撃などに使われていた。また機体下部の運用用として用いられ、基地や砲台の運用用としても用いられた。時代はモビルスーツ全盛期に向かっていた。主砲はリニア型で、向かって右。主砲はリニア型で、向かって右。

- 1 機体上部に搭載された120mmライフル砲。前部（ライフル）部は中口径の機関砲や機関砲と対峙し、後部は高口径の機関砲と対峙する。120mmライフル砲は、この機体では初めて搭載された。
- 2 機体上部のロケットランチャー。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。
- 3 ロケットランチャーと対峙する。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。
- 4 ガンタンクⅡは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。機体上部のロケットランチャーは、機体上部のロケットランチャーと対峙する。

◆ 設定画はP118へ

B A L I

■ RB-79

ボール

Spw

全高12.8m 本体重量 17.2t

エンジンレーダー出力 100W

主武器 キャンノ砲

- 1 キャンノ砲は、ボールの主要武器。180mm口径のキャンノ砲を両側に搭載する。射撃精度は非常に高く、かなりの威力がある。
- 2 機体の両側面には、スラスター・エンジンが搭載されている。機体の移動と射撃の両方を担っている。
- 3 キャンノ砲の口径は、180mm。通常の対空戦や対地戦に有効である。射撃精度は非常に高く、かなりの威力がある。

主なパイロット

近藤 勇一 中尉

近藤勇一は、ボールの主要パイロット。彼は、ボールの運用に非常に熟練している。また、ボールの運用に必要となる多くの知識も持っている。

武器・装備

180mm口径のキャンノ砲

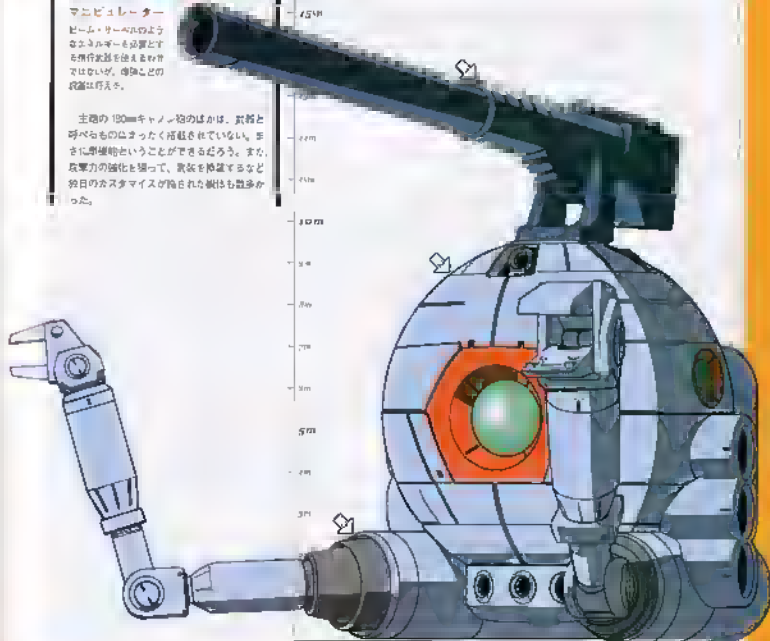
キャンノ砲の口径は、180mm。通常の対空戦や対地戦に有効である。射撃精度は非常に高く、かなりの威力がある。



マニピュレーター

ボールの両側には、スラスター・エンジンが搭載されている。機体の移動と射撃の両方を担っている。

主砲の180mmキャンノ砲のほかは、武装と呼べるものはほとんど搭載されていない。まさに単機動ということができるだろう。また、機体の強化によって、武装を補完するなどの役割の強化が図られている。機体の強化も図られている。



RX系MSを支援するために開発された、最新鋭の戦術兵器。

V作戦の自然が立ち、ジオン公国軍モビルスーツを支援する。RGM-79ジムなどの機体の運用に有効な連射装置だったが、これらの機体の生産には時間がかかり、敵軍に十分に対応できないという状況であった。そこで、支援装置を投入して敵軍の不足を補う案が浮上した。この目的で開発されたのがRB-79ボールである。

ボールは、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。

ボールは、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。

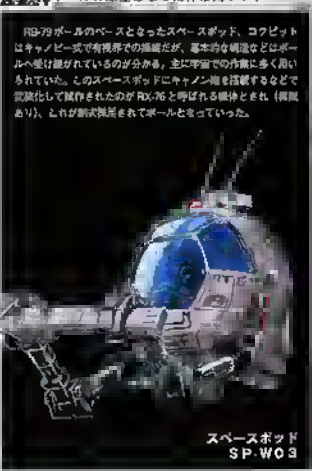
ボールは、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。

ボールは、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。

ボールは、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。

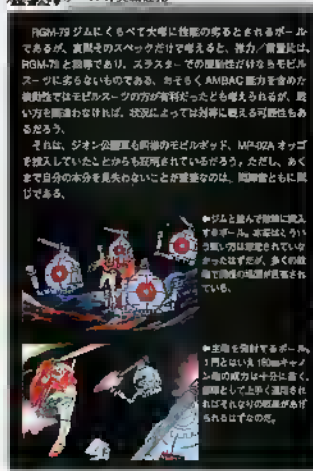
ボールは、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。機体の構造も、スペースボットと似たような構造を持つ。

ボールの原型となった作業用ボット



スペースボット
SP-W03

ボールの発展型



設定画はP105へ

R A L L K A

RB-74C

ボールC型

5741

会館直営 12名 会館外雇用 17名
 会ソエネムーター班 400名
 会王宮保・キ・ノン 10

デレース紛争でも最前線に
配備されていた改良機

一年戦争後もボール系の機体は、連邦軍での運用は続けられていた。宇宙世紀0083年に起きたデラーズ紛争時にも、案外に投入された機体が確認されている。それらの機体は日、79 CボールC型と呼ばれる。

本機は戦闘兵器として完全に時代遅れとなっていたはずだが、デラーズ、

- 1. 農作物の生産は、人と自然が共生するシステム。環境利用と生産をアグロエコロジーで考える。
- 2. 農作物に必要とされる水素の大半は、空気中の窒素から作られる。
- 3. ノニフィルターとボール型攪拌機を用いた、システムは高効率で、高品質な水素を生成する。

フリートが仕掛けたコソコソとし
(妻の偽作戦)を阻止すべく投入
されている。具体的にはコロニー破壊
のために、連邦軍が準備していたソー
ラ、システムⅡの敵船作戦や、警備任
務に就いた戦隊があったようだ。

機体形状などは、R B、79ボールとR B、79 KボールK型を定して2で割ったような機体といえる。ボディや翼などにはR B、79ボールで、マニピュレーター部分がR B、79 KボールK型

といつたところだろう、
な変化はないと思われ

なならば、一年戦争中からその戦況に疑問の聲が上がつていた日、79年12月である。戴南探へ投入するよう無謀なことではないだろう。それと戦後で疲弊しきつたときに、自軍の過半数や新規開墾で軍事費用を上げるのは荷役ではないからな。だが、前身が作業用ボツドということもあり、ソーラ・システム目の敷設作業

に付った物質の侵入。手の物
場は意外に多がない。手袋の
つたのがもしない。手袋の
た。川上は「た」の「た」も
三の連環には新しい作業用
を開る余裕はなく、従来多日
79ルを改修して使い回しメ
ソットの万がたか「た」と
た。

BALL K - TYPE

■ RB-79K

ボールK型

570


●想 得 点 12.5pt ●本 年 合 計 17.2pt
●主 要 出 題 2次法マシニング(フィフティーン・キャラクター)

キヤノン砲を運義マシンガンにしたボールの派生型

一年戦争後期、本格的反攻に向けて、
戦力が整いつつあった連戦軍が、AG
M・79「E」初期型ジムと同時に配
備していた機体として、RB・79ボー
ルの派生型のひとつRB・79ボール
K型がある。

こうしたRB・79ボールの派生型は、
部品の調達や工場ラインの稼働率を調

降臨のために、今後の聖産化を願ふ。問答
 友：RB・79Kも、その1つとされ
 ている。基本性能としてはRB・79D
 ルと変わりはなく、先行配備され
 分、要緊運用に關して、要緊が、早
 り取り入れられ、部隊や機密に於
 ける仕様や、いろいろなカスタマイ
 が試されるようである。
 特に攻撃力については、各方面でさ
 らなる強化が求められていたようであ
 る。

表「サンガン」(通称「フィッパ」)は「キャリバン」へ変換したものが存在している。さらに、リネアイトやワイヤー射出機を備えるなど、様々な設備が用意された「マニビュレータ」もRB-79ボルトと異なる点で、から枝分かれてサブアームが伸びており、作業部のハンドが4本に分化している。

特徴的なマニビュレータも、後期

に生産されたR-B、
つてから、作業効率が
つるのかもしれない。R-B
・79・ポールと同意す
のの主任技師が、R-B・
般されたというウヤ、射出機を使い
主ビルスツツを行動不能に陥れ、
方の機体の危険を救ったという報告し
エビソードを誤解されている。

→ 指定面は P11B のみ

V 作戦RXナンバ ーMS考

本書の母体である「グレートメカニックDX」誌でもお馴染みの方が多い
プロモデラー兼グレメカ模刻版主任「ヤマザキ重男」による立派なビルド
ッ考略。今回は数々のV作戦ニ乗セット、重宝な資料をお届けします。



RX-78
GUNDAM
MG (マスターグレード)
RX-78-2 ガンダムVer.2.0

スケール 1/100
品番 64107 (985)
価格 1,100円



0.75
GUNTANK
MG
RX-75 ガンタンク

スケール 1/100
品番 64109 (985)
価格 1,100円

GUNCANNO
MG
RX-77-2 ガンキャノン

スケール 1/100
品番 64108 (985)
価格 1,100円



C

RX-75 一年戦争後編 ジャブロー配備機 対空を重視した機体設計

機体設定

月と、その周囲の衛星の周りを飛行する機体としてジャブローから配備された。その目的は、宇宙空間での対空戦闘と、地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。

機体はジャブロー配備機として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。

基本色
3色塗装



D

RX-75 一年戦争末期 ヨーロッパ戦線 機体の機体変更に対応するための機体設計

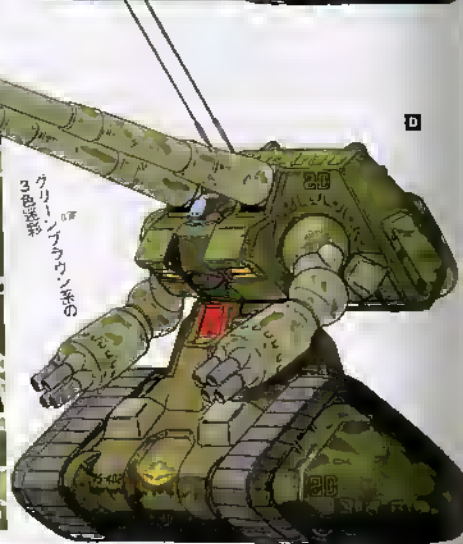
機体設定

機体はジャブロー配備機として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。

機体はジャブロー配備機として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。

機体はジャブロー配備機として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。

基本色
3色塗装



A

RX-77 一年戦争末期 ジムカラー 四小隊運用のための改良もジムと統一

機体設定

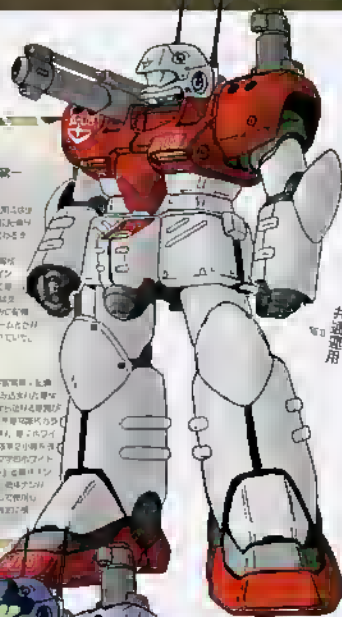
機体はジャブロー配備機として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。

機体はジャブロー配備機として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。

機体設定

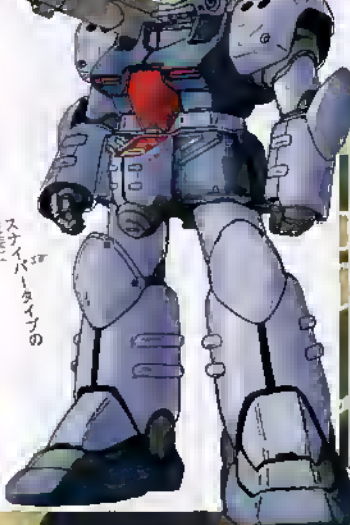
機体はジャブロー配備機として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。

A



基本色
3色塗装

B



RXシリーズの迷彩 V作戦における カラーバリエーションを考える

アンニキス、機体カラー、機体カラー

機体設定

RX-77 一年戦争末期 ジムスナイパーカラー 宇宙空間に適したベースカラー

機体はジャブロー配備機として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。

機体設定

機体はジャブロー配備機として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。地上からの対空戦闘に特化した機体として設計された。

V 作戦のモビルスーツ

武装



概論

緻密に作られた兵器体系のなかのモビルスーツの武装とは!?

V作戦で生み出されたモビルスーツは、様々な用途を想定されたタイプが開発され、またその武装も様々だった。これらの武装の用途と実戦での効果について検証して行こう。

又、矢吹順子

のである。

ここで連邦側が開発していたMSは、あらゆる面で先行していたサクⅡの性能を凌駕することを、ある意味至上命題としていた。その結果、最も初期に

連邦軍MSの目玉的装備
戦艦なみのビーム兵器

重要だったのは、ガンキャノンとガンダムはいずれもシエネレーター出力に余裕があったことから、小型のメガ粒子砲というべきビーム、ライフルの運用が可能だったという点である。

フルに対して、ガンキャノン用に設計されたそれは、遠距離からの火力支援を担っていたというMS自体の性格の違いを反映してが、さらに強力なスペックを備えていた。また、使用にあたり

ICAP理論に基づき、高出力熱源を集中発射する一種のレーザー兵器だったのだが、対モビルスーツ戦闘用に特

代ではないこともあり、欠点がないわけではなかつた。というよりも、理論的にはエネルギーが放射するまで直進するため、射撃にあたつては自身と敵を一直線上に置く、いわゆる直接照準が必須つた。

また発射と同時に非常に明るい光を放射したことから、敵側が発射位置を特定することも容易だつた。すなわち敵側が同レベルの強力な兵器（この場合は

ビーム、ライフルもいくつか欠点があった！

なおビーム・ライフフルとはエネルギー

すなわち地上構築物などに対しては、
実体爆兵器の方が有用だったことは、
注意しておく必要がある。

ビーム・サーベル
ビーム・ライフルと同等の破壊力
を持つ近接兵器

もう1つガンダムが装備していたビーム兵器には、いわゆるビーム・サーベルがあった。ガンダムが命中した水素が蒸発していたおなじみの装備である。おそろしく残酷「スター・ウオーズ」に登場したのが元祖と思われるこの兵器の設定は、高温のプラズマを威力によつて収束成形したものとされている。すなわち高温の気体だったということである。

問題はその遠征だが、実際の戦時ではシオン公国劉MSの超強スチール合金ボディを、一刀両断するだけの能力を備えていたことから見ても、数千座に達していたことは間違いない。全属破壊に特化した近接戦時兵器としては、ビーム・ライフルと同レベルの破壊力を備えていたということである。

一方、ジオン公国側にはヒート・ホークやヒート剣といった二連のヒート兵器があつたわけだが、これらは実体を持つ機雷兵器の刃の部分で過熱していったという点で、ビーム・サーベルとは根本部分で異なっていた。ビーム・サーベルの刃は、あくまでプラズマと

近接戦闘兵器

対M5戦には不向きなバルカン
原始的な物理兵器ハンマ(※)

この他、連邦兵が以前に採用していた
兵器としては、まずガムダムとカシカ
ヤノに固装したミサイル搭載された
軽歩兵バルカン砲があり、□は60
ミリ、△は75ミリ、○は90ミリ、
格闘戦術の攻撃やフライングに有効な
た。ただし、あまり論議が興とこ
れだ。だがこのM5を攻撃するだけの能
力は持っている。

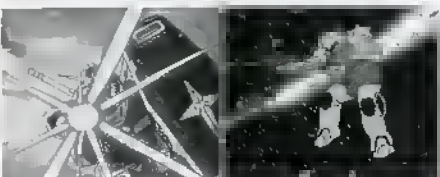
もちろん非常に汎用性の高い銃で
あり、地味射撃や遠距離など、いわ



ク、マシンガンやザク、バズーカしか
持たなかつたザクⅡにして、連邦側
新型MSのまきに新型たる所以だつた
と言つて良いだらう。

は、獨逸の軍艦ビーレを誘捕し、M
S、O9とからこのことあり、本格的
な機行作戦に、ライフルなどとい
ば、いけなく、M14のググの要を待たされ
ばいいから、連隊に対してし
まで度を超えて取つてしまふは、當初
MMSに経験した任務とはあくまでずれて
陸上兵器と艦船兵器との戦戦であり、
従うガムラや座船に格闘するといふMSS
の要領は、まさに意外だったことが
理由である。

ビーレライフルも
いくつが欠点があった!?
なおに、M、ライフルとは工兵ルギ





をガンダムのガンダムに置き換えていいが、白土は「ガンダムはよく
伝わる」ため、比較的容易に受けたビーム・サーペント。刀剣も、モビル
スーツを所々では取り入れ、力不足を個性でカバーする活躍に対してと
ても賞賛を博し、主眼的なモビルスーツの美点といえる。特にジョーンが前衛で
も圧倒的な戦いぶりだ。

ゆるい展開図に要求される任務のほとんどが、それとなくこなしてしまいがちで、そこには言うやうなものもない。ただし対空戦においては決定的な意味を持つたけたら。

さらにガンダムの外に装備可能なたつたユニウス長銃とではガンダム、ハンマーとパイパー・ハンマーという、およそヒューム、サーバルの総称でいうべき超大型機兵器があった。これは極めて強力な物理攻撃力を持つた球である。要するに物理タイプではなかったものの、近接戦闘にたいする暴君級の内容の存在でもあった。ただしこの機體についてはあくまでパイパー・ミノウの演出で主役さ

ハイバー、バスーカ

大型目標用の実体弾兵器
地上ではビーム以上の使用法も

ガンダム世界における兵器というべきはビーム兵器に対して、どうしてもの存在が希薄になりがちで遠距離での実体弾兵器についても考慮を加えておこう。まずガンダムが装備していたハイパー・マズルカである。この兵器は口径380ミリという、ザタ・バズカカンの280ミリを大幅に回る大口徑砲の1つが特徴であり、その威力は戦艦の主砲に匹敵していたとも言われている。

実体列キヤノン砲

キヤノン、タンクの主砲は用途により分けられていた

この他、ガンキヤンとカンタンクウの実はそれぞれ2400円と2000円で定額に決まっていた。ガンキヤンが愛蔵されていられなかったが、前者は持ち主が後者は隠すか否か、そのにわかめがわらず、両身が明らかに異なる。ガンキヤンの接合部がや後方より火の力支援からの刺激を受けて、汎用性を求められていたのに対して、ガンキヤンの場合はその形状からわかるように、大穴内部での近距離火の力支援が当初の想定仕様だった。長崎のガンが200より弱という意味では最悪な設定だったといえる。

主砲が設定では低圧キヤノン砲だということである。低圧砲は自走砲において反動を少なくするという意味では有効な一方、長距離射撃においてはロケットブースターなどの助けが必須となる場合がほとんどであり、ガンタンクの場合もおそらくはそういうシステム

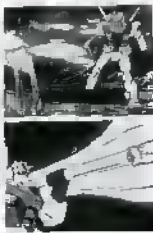
など、運用面で汎用装備としたメリッ
トは大きかった。

ムの要求が多かったこともあり、バスケットの重さ・長さなど耐久性が求められたこともあり、バスケットの360ミリの短と全身長をルナライフルを固定装備して、全身をルナライフルを台座の増加装束で覆ったアパルトメントガンダムにF.A.78、11、アルファミーガンダムにF.A.78、2（ベビー化型の最終形態がF.A.78、2（ベビーガンダムであり、長射程のチーム・キングダムという艦載メカが主砲）の増設の大火力を備えていた。

元々あった兵装を有効活用するという多様性

「こうした派生死亡は他にB×79(G)に陸戦艇向けの装備があつたが、こちらは宇宙艇向けの装備をすべて取りやめ、1000とリマシンガン、1800とリマシンガン、機部マルチ、ランチャー、キャノン、サイルランチャー、ランチャー、各5個の装備を適宜ドロップして、陸戦艇の装備を適宜という多様性を確保されてゐるが特徴である。

このモデルはある意味オオサン公国個のザワリの頂いやをさ参考にしたい。また、このモデルは、ザワリに代表されてゐた前部からの要求にB×78、



神樂に「ほゝんバルカン」にして、のの口のハズレ、ハズレ刃にて、ののザムホウの周知を考ふるに則ち的を射ぬといふのなりとない。うたしたに「理知家がエビルズ」に刺さる、描っていた「演習」が演習界あるものではないか。生者の心にも、うたはたは演習は絶えず流れてゐた。

[illegible]

「ガンダムの主人公」といえる機體「ガンダム」や「新安洲」は、ビーム兵器の運用も可能な機體だったが、主に空戦用の機體で運用していた。奔奔による火傷などの被害は海兵隊員はなから受けていた。今までは高高度でも安全だと思っていたことから、多く用いられると考えられ、いたずらにビーム兵器を扱いにくいのは連戦部隊の要員にすぎない。

に於いてスプレー、ミサイルは小
口に換装することもできた。これは小
口径のミサイルを一気に発射できる制
圧型の兵器であり、封鎖上陸戦に對
して極めて有効だった¹⁷。

後援ゆえに翻むことができた
激進な兵隊体系

いわゆる「V作戦」は大量のM5をもつて地球侵犯に乗り出したジオン側に対する連邦側の最終反撃案だったわけだが、その中核として製作されたガンダム、ガンキャノン、ガンタンクの

2 開発の過程で生じた余剰部品を利用して具材化されたというエピソードも語れる。

[illegible]

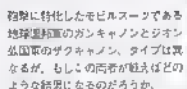
[MATCH No.4]

BX-77

ガンキャノンvs

MS-06K

ザクキャノン



1000m	金谷	17.7m
500m	水谷愛理	59.1s
700m	金谷	—
1300m	ジェレミー・出力	97.9m
5100m	スティーブ・ライ	410.0m
1000m	金谷	17.7m
500m	水谷愛理	59.1s
700m	金谷	—
1300m	ジェレミー・出力	97.9m
5100m	スティーブ・ライ	410.0m

ザクザクの最大の特徴は、ランニングでも肩を揺さぶられたら80センチまでバネによって身体部を使用するために強硬によって空洞部が、近々ビススウット部をこなせる。また、腰部はバネによって呼ばれるウェット強固な構造を備える。対するロウ、ワカンランは高反発、長持ちランニング、フルと実持の低反発、40ミロキータンと2個を併用する。速歩もルナ、タニウムを2個併用。若手はガンダムより厚いという車脚部だ。

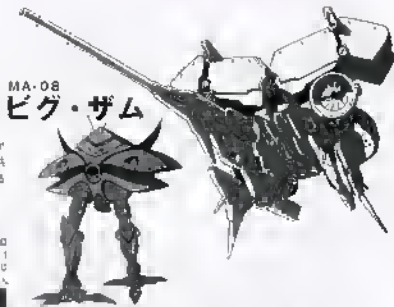
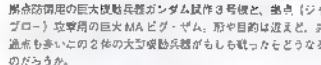
れは明らかだ。

[MATCH No. 3]

RX-7BGP03

ガンダム試作3号機vs.ビッグ・ザム

MA-08



↑ヒップ・ツルは基準的に3名で構成する1人で構成することも一部行われる。これらの大規模演劇を影芝居にはおいても少ない人数だ。

2264h	女性希望	1021.2h
453.11	全学希望	
36300-20	ジェネレーター内付	1400004W
2265000kg	マスター船付	590000kg
	船付材質	船体スチール合金
ノボ・ビーム周 荷重太		
スチール		
マイクロー・メタル・コンタ	深圧	メタルマイクロー
スチール・メタル・コンタ		マイクロー
マイクロー・メタル・コンタ		マイクロー・メタル・コンタ

一年戦争にシオ公国軍が開始したビグ・ザムと、宇宙世紀0088年に稼働したガンダム試作3号機が、機体統制には考えないが、両者を比べれば差違も多い。

ビグ・ザムは機体数増用、ガンダム試作3号機は機体数の兵器として開発された。その目的は異なる。だが、両者とも、極めて多岐の用途に統制することを想定している試みである。ビグ・ザムのビグを取り囲むように配置された26基にもよるムシメダ子

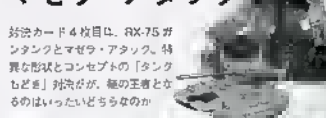
[illegible]

[MATCH No. 5]

RX-75

ガンタンクVS

マゼラ・アタック



◆ 聖都からマゼラ・トップの
機はガンダムのランドセルを破壊する
が、



テープには添えられたら、あつたが、マセラ・マティクは簡単にできるだろう。

ガンタシク	スベツタ試験	マゼラ・アタック
1.0m	全長	1.0m
5.0m	水圧試験	5.0m

800	金型玉組	—
575	ゾエホシャー・出立	—
5000	ソルター・出立	—

ルオ・テクニウム学会	装甲兵器	—
ISOMV 個装機マニオン組	兵器	175 機務隊

4. 調査方法・対象者・質問紙	調査方法	調査対象者
-----------------	------	-------

弱点を集中攻撃されれば、
カン・ヒョクは戦北は、キム・イル
ワン・ヒョクは、キム・イル
を待つ車中、120ミリの低反動ライフル
銃という武器から転がらぬと思われ、
だが、後方から砲撃を受けている自立隊の
性格の機敏さと計り知れない兵数とで、
一方のマゼンタ部隊は、陸軍指揮官に
討つことのないジコウ公団軍が来る
た事実である。

両者は「マゼンタ」(無差別報道)で
動く。この以外には大々的異変や特殊特
徴兵起したか、射撃と接近戦を繰り返す
ために「コグビツ」を高い位置に置くとい

[illegible]

時間の
戦車
本来な
場合は
は八十
ビラは
ワウの
脚を止
のグラ
わすも
ンクが
アタツ
もかく
性は小

の飛行を
かと思
い同者
はとう
ン・チ
は異な
の17
止める
ンスキ
がなで
が勝利
クが機
戦闘
分に

る。この二つは、*the* の語源である。

もしも、
ガン
公合全
われ、
無反動
でござる
「おつ」
「おつ」
手が高
場合、
に違い

その間に、
操縦する
艦艇に
タンク
燃料を
マゼン
タでま
るでま
たろう
クビツ
一では
いが、
記全資
込まれ

ある。ことはなつたの装束のキヤタ・アタ・破壊し頭部トは實ガシタ増はとる可能

1.0 km	500 m	200 m	100 m	50 m	25 m	10 m	5 m	2 m	1 m	0.5 m	0.2 m	0.1 m
--------	-------	-------	-------	------	------	------	-----	-----	-----	-------	-------	-------

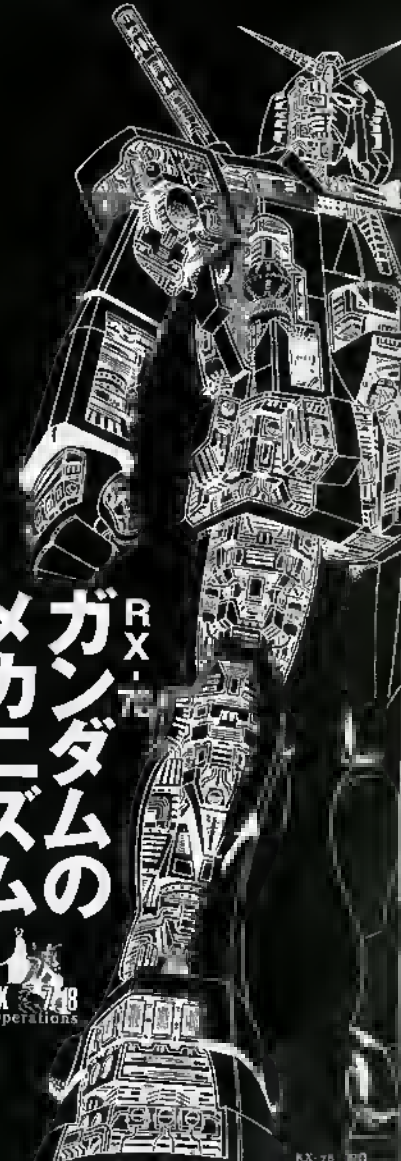
なわ、も、実際にビブ・ザムとガンダム試作機が戦ったことについては、リアルタイムシミュレーターでは簡単に大元のギョウと知バーム・サヘルを備え、その運動能力で圧倒的に上回るガンダム試作機が有利だと云える。

反対にビブ・ザムはほぼビーム兵器の兵隊で、ガンダム試作機には攻撃手段が乏しい(これもビブ・ザムを、ガナ分けて開発を進めたことが原因だろう)。

ガンダム試作機が機動性に勝つのは、リアルターマイン・イエシールドだがこれは往時のビブローの強化機であるといへる機体でもある。

そまて違ふものの、個々異なる性質を
似通して、というところからわかる
ビブ、ザム・I 型で構成・造作された
わては9 隻と、モビルスーツ21 機を駆
破したという報告もあり、日々、78 年
よりアメリカン^①がいびきれば、さとい
に被害は増えないうただろう。

戦争で平柄、被害を受けた兵隊や将
達に対し、戦死された者のための慰
や手段が講じられては、現実として
あることだ。運搬量は、ビブ、ザ
ムの記憶が削げたり、それに伴って
する手段としてビブ、ザムを参事し
よけ至親に似た人、族内や形態し



**ガンダムの
メカニズム**



「●ジェネレーター」
意外に低い
モビルスーツの馬力

毛ルニシテの動力は、熱源であり、
である。これは核分裂の一種であり、
同じ核分裂をエネルギー源とする電子
炉釜と核融合炉との核分裂炉には大
量正との心配が少ない、安全かつ効
率高いエネルギーであるといえる。核
融合炉などには発生するが、
本来、核分裂炉は熱源地位の高揚
に際し、かつ高度な安全水準維持を要
し得ない。大規模設備を必要とした
だが、トレンブ、Y・ミソフスキー博

そして、ミロフスキと物理学の関連物として、これはレーザー粒子も含まれる。これはレーザーなどの電波を使うったデバイスをも発化する効果があり、ミロフスキとツボはの状況に適合するく、変身み出された細胞の運動長路だったといえる。

この熱反応反応は熱エネルギーを生み出すが、細胞内電圧のモビリティでは、これを力に変換してモビリティ

ジャンク公園軍のMS-06ザクが徹底的に研究して開発された地球連邦軍のモビルスーツは、単なるザクの「コピー」ではなかった。それどころか新機軸を多数投入した野心的なメカチームを持っていた。要領、その後のモビルスーツ開発は、ジャンク公園と地球連邦の二系統で進んでいくことになる。ここでは、78のメカニズムについて検証してみよう。

文・市谷ハジメ

などを動かす動力源としている。現代の電子力系統は、核反応によるエネルギーを、電子エネルギーに変換してシステムを駆動しているため（核反動の莫大なエネルギーでお金を湧かし、タービンを回して電気を供給している）の如く、宇宙世紀70年代

のそれは本末を介する必要がなく、エネルギー変換の高効率化を達成している。この電力を生み出すシステムを指して、モビルスーツではジェネレーターと通称される。ジェネレーターとは正確には発電機のことだが、最終的に電気に変換していく意味で、換機機にエ

も全体がきつめられている。
実地は、モビリティの生み出すエネルギーは意外に低い。FX、活弁システムの出力は1000キロワット、馬力換算すると約1000馬力程度、現代の軽車2台分程度。意外と思われながらも、十分なパワーであるといえる。要するに、ものごたないエネルギーであるだろう。

ヒーム兵器を
使用するために必要な出力

ては、このようにいふは、いふ出で、種族
会合が必要なるのだから。その理由の
ひとつは燃料の供給がほとんど必要な
い、ということが考えられる（推進剤
などは別にして、それに付随して極
めて小スペース、もしくは電気で稼動
が可能だつたという側面もあるのだらう
モビルスツーツの性能を譲らぬスベ
ースで達成するために、核融合炉とい
う選択は必然だつたのだらう。

ジエネレーターで生み出された電力は、
ピーム兵隊（メガ粒子砲）の運用にも
転用される。メガ粒子とは、ミノフス
キー粒子を圧縮して超遠距離にしたも
ので、圧縮時のエネルギーが星かげ上
のエネルギーに転換されることを利用

して、リニア伝送として使用しているもの。

メガビット種は、本来は電話線に搭載された大規模な設備を必要とするが、特殊な用途に、このミノフスキー粒子を加速する能力を圧縮したものを、小型の鏡状本体に搭載し加めチャージしたジエネレーターの電力を供給することによってメガ粒子と変換するという方式を採用し、メガ粒子種の小型化に成功した(エネルギーC&D)といふ。

日×78年ジグザムのビーム・ライフルは、レンジ70ジムのビーム・スプリングは、構造上はほぼ同じで、個体のジエネレーターの出力が、30キロワットであるといふ。ビーム種の出力差であるといふ。ビーム種の出力が必ずしも低く300キロワット程度の出力が必要と考えられる。

おそらく、以後の高さは、運動性のジエネレーター、出力の高さは、運動性の向上にも寄与したであろうが、むしろビーム種の能力を引き上げ、新しいデバイスの能力量として、搭載されているという側面が強いだろう。

「9スラスター」

**モビルスーツの
圧倒的機動力を支える**

一方、モビルスーツの機動力を耐えるものひとつの指標、主に宇宙空間での

地球連邦軍とジオン公国軍
スィーツのジェネラーターは核

いう点では同一だが、駆動システムは
ずいぶん違うものである。M5、06ザ
クIIは、助力システムに液体内バルブ、
システムを採用している。これは核融

ザクとまったく違う道を選んだ動力系

地球連邦軍とジオン公國軍のモビルスーツのジェネレーターは核融合炉という点では同一だが、駆動システムはずいぶん違うものである。MS-06ザクIIは、動力システムに液体内パルスシステムを採用している。これは核融

も劇的な変化をもたらすのこ
機体の特性が変わるといふ程

あるテクノロジーの基盤の上に
技術を応用したのは、ひとつにはなる
べく信頼性のあるシステムにしたいと
いうこともあっただろう。だが、本来
的にはマグネット・コーディングなど、
さながら性能向上の余地が見込まれて

X-78

連邦軍の戦略・戦術

V作戦とホワイトベース

地球連邦軍の一大反攻作戦の礎ともいえるV作戦。あらたなビルス・ツン開発と、それに付随する「戦術・戦略の構築、各艦艇の開発が行われた」とはいうまでもないだろう。ここではそのV作戦の要、戦術開発、ホワイトベースを主軸に、地球連邦軍の戦術・戦術を解説する。

文・元崎 隆

連邦軍のV作戦の真実の姿

ガンダム世界におけるいわゆる一年戦争勃発時、地球連邦軍はオラン公国軍の優れた戦力の前にもゆる戦線において弱みをつかっていた。すなわち事実上の長距離砲撃が不可能だったミノフスキー粒子環境下での近接戦闘に特化していた人型戦術兵器であるビルス・ツンMSの存在と、その運用理論が確立できていたことが両者の明暗を分けていたといえる。

こうした状況における戦術面に対応して、地球連邦側には必要があった。それは開発中だった新型MSである、RXシリーズを中核に据えたV作戦の実施である。この作戦についてはRX

78、2ガンダム、RX-77、2ガンキャン、RX-75ガンタンクを主戦兵器として、標準兵器だったRGM-79ジムと、RGM-79ボールの完成をもつて、大反攻を遂げるというものが、だが、実は作戦全体の具体的な進軍計画とならざるひとつ判例にすぎないのもまた事実だった。

それについてはいくつが理由があるのだが、その代表としてガンダム本誌においては、連邦軍側の主力艦であり、作戦の主軸を担っていた形に描かれている「ホワイトベース」の設定と、実際の任務の乖離だった。

ホワイトベースの本来の用途

設定によればホワイトベースの艦種

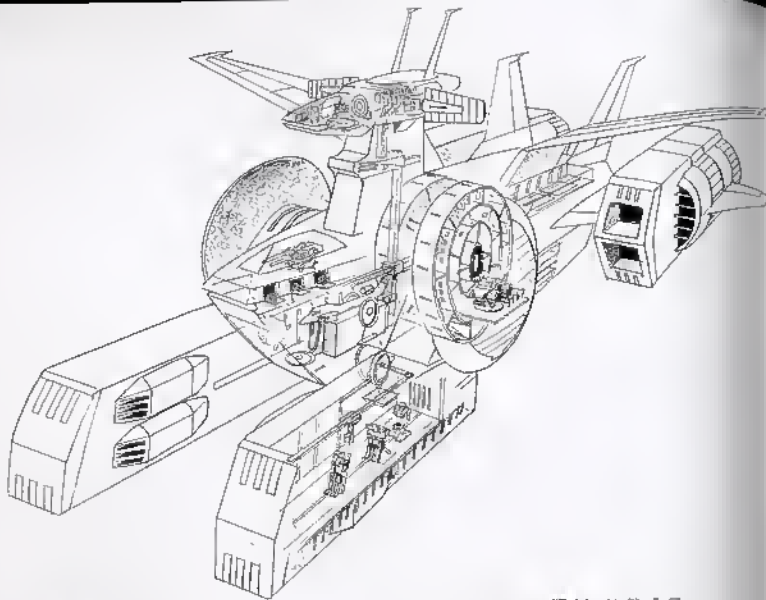
は「強襲揚陸艦」ということになる。すなわち様々な任務を想定した攻撃部隊を艦内に収容し、敵地近海でそれらを発艦させ戦線を制圧するというもの。戦艦終了後は残った攻撃部隊を回収し、補給と整備を行った後、再び戦線に送り出すというのが任務だった、というわけである。

V作戦の理想と戦場とのギャップ

しかし、実際において描かれていたホワイトベースの役割は、地球連邦軍の既隊主力というよりは、単独もしくは小編成で、ある種の特殊任務を担っていたのは存在の通り。その背景にあったのは、最終的な設定は改良型も含めて徹底して完成したとされるホワイトベース級の中で、訓練で戦った

は先述の開口部から、カタパルト発進ができるところ。宙空にはさき多く、その性能を確保できなかったと、その性能は訓練艦艦種に比べてでなく、大型の揚陸艦や、工艦としても十分過ぎる能力が与えられていたものと推測できる。

問題は、そのMS搭載能力をめた総合戦闘力なのだが、当初搭載していたのは、前述の事実上の戦術兵器を等しかったMSが艦のみのみだったこと。つまり、実際のところには未開発であり、未完成でもあるというのが正しくなる。さかして、これは、その艦形が大きさが目でも、ジムや他の主力MSの完成の他には、ホワイトベースに可能な限り搭載し揚陸作戦を実施するというのが、V作戦の骨子だったことと関連



地球連邦軍強襲揚陸艦ホワイトベース

全長 126.2m 全幅 20.25m
全重 93m 質量 32,000t
武装 60mm2連装砲、2連装メガ粒子砲×2、
射撃ミサイル発射装置×24、他

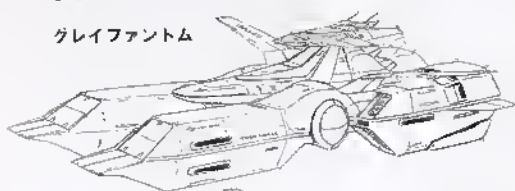
地球連邦軍がビルス・ツン運用を主眼において開発した強襲揚陸艦。ガンダム、ガンキャン、ガンタンクの母艦として活用された。ア・バオア・クー戦にて戦ったのは、大敵

現実における強襲揚陸艦の姿

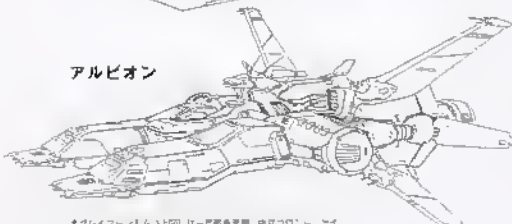
というわけで、ここからは現実世界の強襲揚陸艦作戦を踏まえつつ、本来のV作戦とは具体的にどういったものだったのかを推測してみることになった。まず作戦の骨子、前線後援作戦の姿、いわゆる戦術支援の確保が

【ホワイトベース級バリエーション】

グレイファントム



アルビオン



オブレファーム(上図)は一般戦争期間、中豆コロニー、マイド名のリバー、コロニーでスカーレット製の銃信として活動している予隊。レモン公使館を襲撃した経緯も行った。アルビオン(下図)は一般戦争中に活動したボクサーズ隊の母艦「ホワイトヘリス」の艦長兼主計主任に就任しており、GP計画の母艦とも位置づけられている。キルバート軍艦のタカバトデグナなどが活躍されている。

う意味ではホワイต์ベースの性格に最も近かったのがこれらの航空戦闘機だったといえる。戦艦に何らかの母艦の能力を持たせるとい、ホワイต์ベースの設計思想は、見ると空艦無根にも思えた一方、運用方法さえ確立されれば、あながち的外れなモノでは無かったといふことである。

はなかつたといふことである。

それに対してガンダム世界における
ホワイテベースの存在は、比較になら
ないほど強力だった。圧制的だったと
言っても良いだろう。ジオン公国側の
戦艦による射撃にもビクともしない
耐久性は、おそらくガンダムのそれと
同じルナ・チタニウム合金による装甲

備えた攻撃機や戦闘機、リコプターを運用したとすると、総合的に攻撃力という意味では航空自衛隊に及ぶところでは無い。加えて強襲揚陸艦とヒートで行動する、いわゆるドロップ制陸隊艦は、その後のLACG（ボイークラフト型揚陸艦）を収容し、善悪に部隊の原則を侵す可能としている。一方、攻撃力「防衛力」という意味では、強襲揚陸艦よりもさらに劣っていた。どちらも最

出たてでない状態での機動である。すなわち事なきは然るものの機動は、それと相応の攻撃力も要求される。

実のところ、現実世界の空防戦術は、この「攻撃力」と「迎撃力」という点で今ひとつであり、理論と攻撃が相当する。実際の付随なしには実行可能に制空を奪取したといふのはアメリカ海軍の代表的強襲揚陸艦を見るとき驚かすには航空艦に並んでいるものの、その飛行甲板は基本的には特設ヘリコプターの発着艦のためのものであり、仮にCVT、SBBハリアのような、重巡洋艦級航続能力を

が施されていたことが理由だったろう。

し、大口役の実体強主権や、強力なメ
ガ粒子砲まで装備するという、戦艦な
みの武装を見て明らかなかった。こ
うしたスペースは現実世界の幾層幾層
には存在しなかつた華やかなポイント
であり、ひいてはホワイトベースの強
固艦底としての性格が現実のそれと
かけ離れ過ぎていたため、とっすれば
寝床になってしまった理由でもある。

機証！ 強襲揚陸艦
ホワイトベースの実力

ここで一つ度、ホワイト・レースが検討された時点を追って、任務を遂行しようとしてゐた。任務は最新型ミスを主とした攻撃部隊を動員して取り返さうとする。従つての過程において、敵の最終終末戦へ、同時に敵艦隊に四圍空交戦とせられざる様にするに於いた。こうして並べたる非常に過酷かつ、ある意味なる存在だに過酷かつ、ある種な事。まことに考えなら、護衛を一切となし揚陸艇半体の機件操作を担ひ得ない。しかし、その可能性もないだけにとどまらず、更に更に他の大體を向けての戦費を降り広げなすホワイト・レースの能力は、まさに計り知れないものがある。むしろ大艦巨銃型戦時の天の、初撃のそれに匹敵した。

ホワイトベースと
V作戦の関係性


[illegible]

長距離砲撃艇に特化した艦が少なかった。ガング
キヤノンについての母艦の機動性は歴史をたど
る方向での運用、たとえばドックに停泊して
照ての周辺警戒といった任務に有効な艦で
用できたのである。

ちなみに建造した旧日本海軍の老練船長は、
とハワイのリースの領土には歴史をたどる
たらしめた。戦後の環境であり、理論的には
はやや無理であることは承知である。

それでもなれ、現実世界との共通点を
思わせる辺りにガングキヤノンの世界がある。
がある。

航空戦艦の艦と巨砲が、ハワイのペ
リスの能力と共に、フィクションの
世界に射た。それらはそれで海軍史を
のいた。



※旧日本海軍の航空戦艦伊勢。ミッドウェイ海戦で足らなくなくなった
砲の穴をうねるべく戦艦から改造されたが、その運用も中途半端であ
ったため戦艦と軽巡としての性能を果すことはなかった。



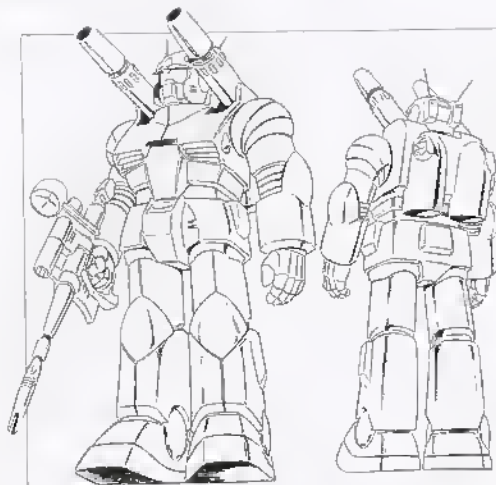
▲旧日本海軍の航空母艦伊勢。ミッドウェー海戦で足りなくなった空母の穴をうめるべく駐艦から改造されたが、その運用も中途半端であったため航空戦術としての効果を果たすことはなかった。

[illegible]

●一年戦争中にホワイトベースと関係が密か、いくつかの理由で選ばれていたといわれるものの、戦線に投入されたものはほとんどなかった。写真はジャブロー基地におけるホワイトベースと、艦隊連中の関係者。

MS設定資料

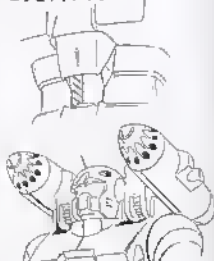
『機動戦士ガンダム』と関連作品に登場したガンダムを中心に、RXナンバーのモビルスーツの設定絵面を掲載する。それぞれ年代順に収録している。なお、MSVなどの関連企画作品は晩年作品の後に、並びは登場年代順となっている。



RX-117 (RX-77-1)
ガンキャノン

ガンダムと同じく地球連邦軍が開発した中距離支援用のモビルスーツ。劇中の位置としては、いわゆる二番手メカで戦や戦は不利だが、それでも主人公が格闘すれば、サックと格闘戦で戦い（第16話「モビル出撃」）、劇場版「I」では、ガンダムに代わり2機同時でスクリーンに登場するなど活躍の場は多かった（劇中では3機確認できる）。

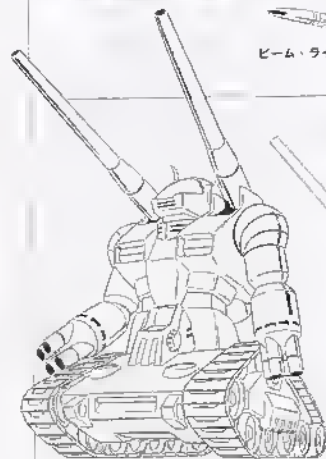
コクピットハンチ



スプレーミサイルランチャー

劇中では使用されなかった射撃兵器

ビーム・ライフル



RX-115
ガンタンク

地球連邦軍が開発した長距離支援用モビルスーツ、モビルスーツ（人型）というよりは、戦車（タンク）に近い。当初、戦車には乗客と操縦の2名を必要としたが、後に改修された1人でも使えるようになった。ただ、劇場版「I」ではガンキャノンに取って代わられ、出番を失ってしまった。

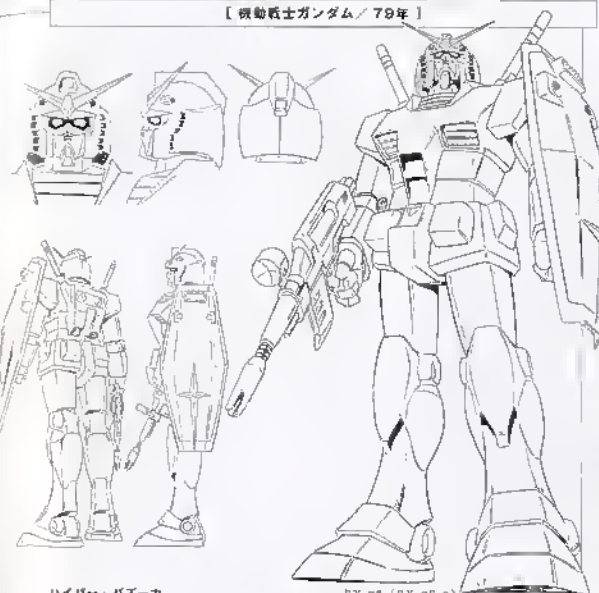
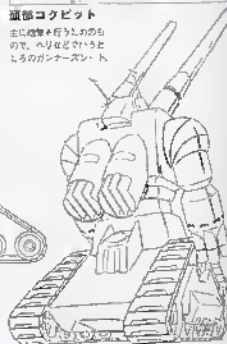


機体搭載したキャノンビルの設定が変更されたことも、ガンタンクらしい機体。

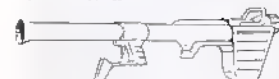


改修コクピット

主に敵艦を扱うためのもので、ベリなどというもののガンタンクシステム



ハイパー・バズーカ

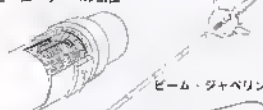


RX-78 (RX-78-2)

ガンダム

地球連邦軍が開発した白兵戦用モビルスーツ。ガンキャノンやガンタンクと同じくコア・ブロックシステムを備えているので、コア・ブロックによる格闘が可能である。主人公アムロ・レイの乗機。紅、剣、雷といったヒーローロボットアニメの三種の神器を備える以外にも、ハンマーやジャベリン（槍）を扱うなど武装も豊富。

ビーム・サーベル高価



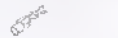
ビーム・ジャベリン



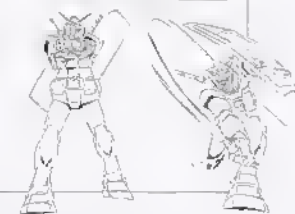
スーパー・ナバーム

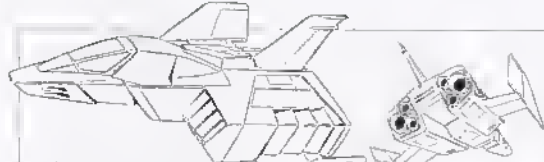


ガンダム・ハンマー



ハイパー・ハンマー





FM-X78

コア・ファイター

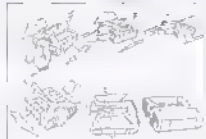
製作室が開発した実用戦闘機。名義上はコア・ブロック・システムの中心となっており、ガンダム、ガンキャノン、ガンダムのコアビットを形成する。コアビットに変形した姿をコア・ブロックという。これにより、各種機体の合体が可能になっている。また、戦闘機としての性能も高い。また、各モビルスーツへの合体も可能だ。

機体ブロックとミサイル



コア・ファイター変形パターン

コア・ブロック



設定画に見る
コアビットの進化



テレビ版



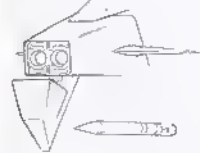
ゲーム版

ここに掲載した設定画から、それぞれのガンダム、ガンキャノン、ガンダムのコアビットを組むことができる。これはテレビ版、ゲーム版などにも同じく見られる設定で、また何れのアウトはテレビ版に準じているが、各機体のコンポーネントはテレビ版にアップデートされているのが見て取れる。

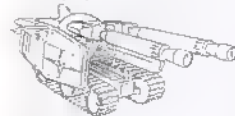
Gパーツ

地球連邦軍がガンダムの実用化を目的に開発した特殊兵器。ガンダムとドッキングすることで様々な形態へと変換。従って同じ装置でも用途が異なる。Gファイターも主軸にGアーム、Gスカイ、Gブルなどの形態がある。ちなみにGファイターには2機、GスカイとGブルには、それぞれイージスというタイプがある。前項において、各パーツに搭載されているコア・ブースターへと変更が加えられた。

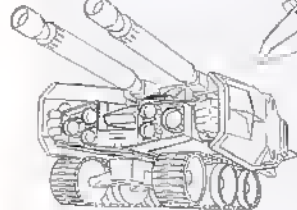
機体ミサイル



Gブル・イージス

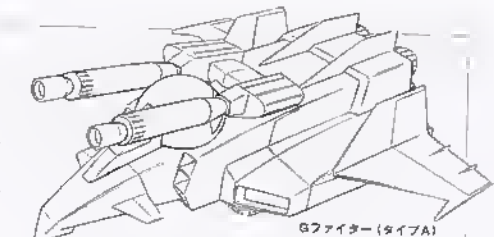


Gブル

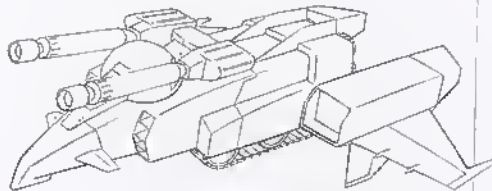


ガンダム+GバージョンB

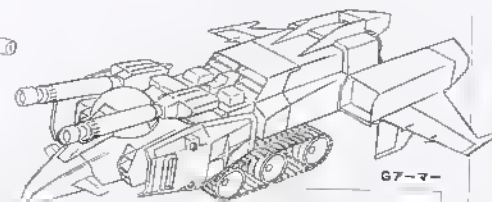
各機体についてはいくつか、変換可能な形態がある。タイプA、タイプBの2つのタイプと、タイプCの3つのタイプがある。各機体はそれぞれ異なる変換パターンを持っている。タイプCは、変換可能な形態が最も多い。タイプCは、変換可能な形態が最も多い。タイプCは、変換可能な形態が最も多い。



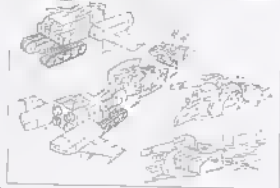
Gファイター(タイプA)



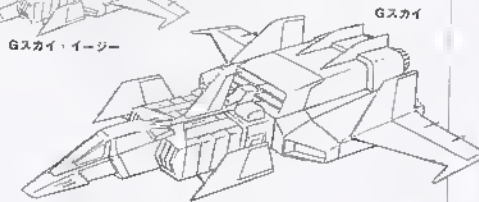
Gファイター(タイプB)



Gアーム



Gスカイ・イージス



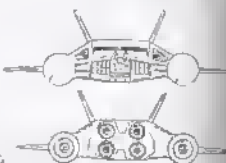
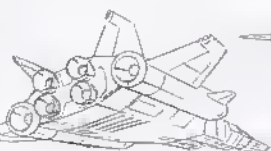
Gスカイ



FM-X78

コア・ブースター

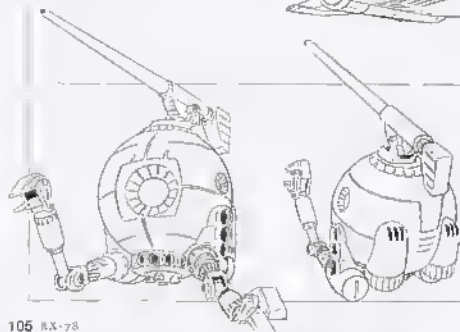
地球連邦軍が開発した大型宇宙戦闘機。機体部分にはコア・ファイターを利用して、機体部分に搭載するコア・ブースターユニットを装備している。機体部分の運用が可能になっている。テレビ版におけるGパーツとして登場している。その設定はテレビ版の戦闘機「G」が改造されたものである。実際には「G」からである。

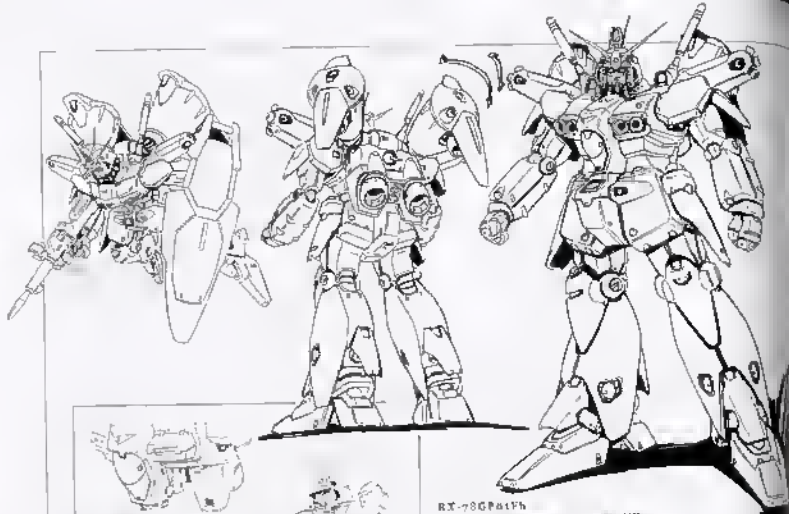


ボール

ボール

地球連邦軍が開発した大型宇宙戦闘機。機体部分にはコア・ファイターを利用して、機体部分に搭載するコア・ブースターユニットを装備している。機体部分の運用が可能になっている。テレビ版におけるGパーツとして登場している。その設定はテレビ版の戦闘機「G」が改造されたものである。実際には「G」からである。





RX-78GP01D

ガンダム試作1号機 フルバーニアン

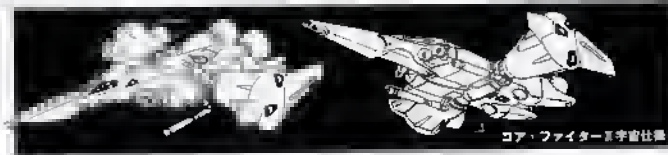
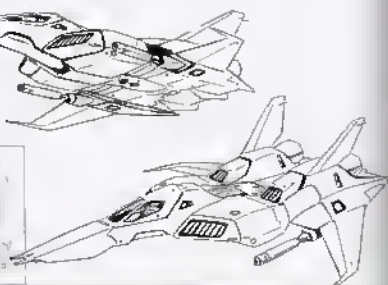
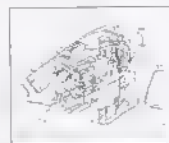
ガンダム試作1号機を宇宙用機へと発展した点、背面にあるAE
が特徴システムで行われた。ちなみにGP機で開発がおこなわれ
た機体には、それぞれ花に関連するコードネームが与えられている。
ガンダム試作1号機の通称はリョウソウ（ユリの一種）。



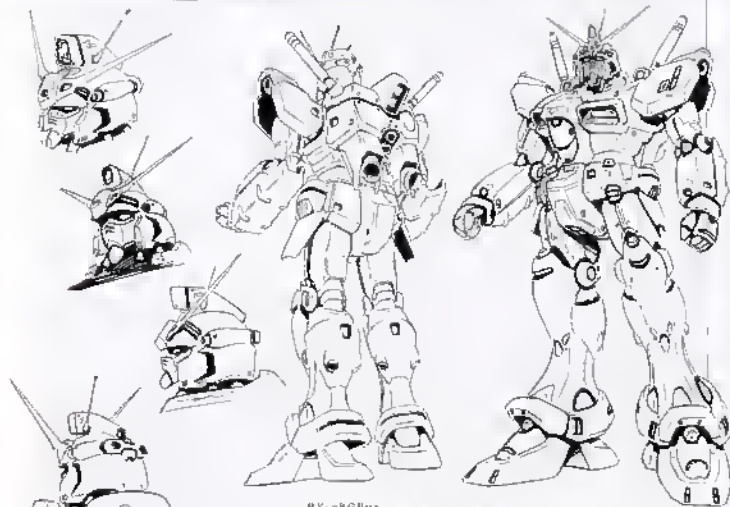
GP・XII

コア・ファイターII

ガンダム試作1号機のコックピットを形成する
機体。ガンダム試作1号機が宇宙仕様へと変
更されるのを受けて、コア・ファイターIIも宇
宙仕様へと変更されている。設定画を見ると機
体は新機といた感じである。



コア・ファイターII宇宙仕様



RX-78GP01

ガンダム試作1号機

地球連邦軍とアナハイム・エレクトロニクス（AE）社によって共同開発された。
ガンダム（GP）開発計画の1機で、コア・プロセッサシステムを採用しており、初
代のRX-78-2ガンダムを基盤に開発されたことがうかがえる。ただし、初代が宇宙
を食う機体だったのに対し、宇宙では有用な装備に換装する必要がある。

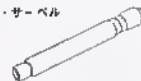
ビーム・ライフル



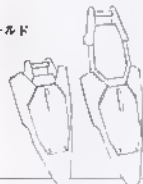
ジム・マシンガン



ビーム・サーベル



シールド

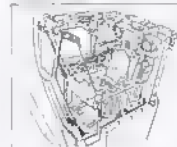


コックピットハッチ

最初のコア・ファイターIIはコックピット
なので、そのレイアウトは旧機に通じても
ある。ただ、コア・ファイターIIの機
体の構造が異なる。シートとモニタの
位置が近く、他の機体に比べて狭いよう
に見える。



コックピット



メガ・ビーム砲



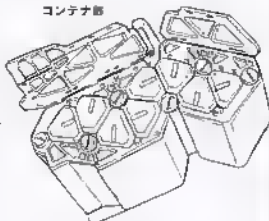
大型基盤ミサイル



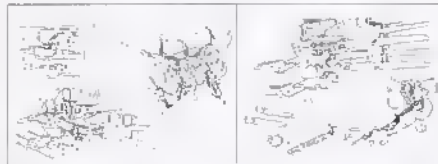
マイクロ・ミサイル・コンテナ



コンテナ部



メガ・アームとメガ・ビーム・サーベル



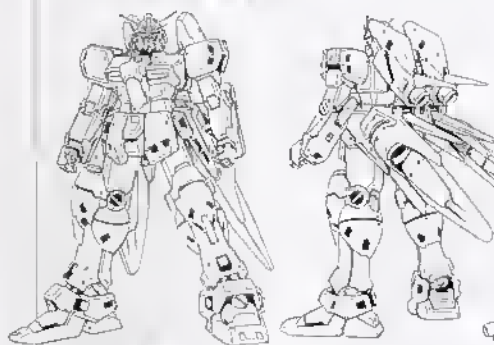
コンテナハッチ展開



↑コンテナには、ガンダム用の武器が収納されている。使用の際はクロアームを展開して取り出す。

RX-78GP03S

ガンダム試作3号機ステイメン



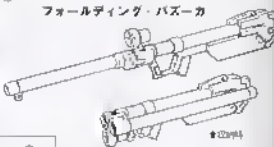
クロアーム展開



フォールディング・シールド



フォールディング・バズーカ



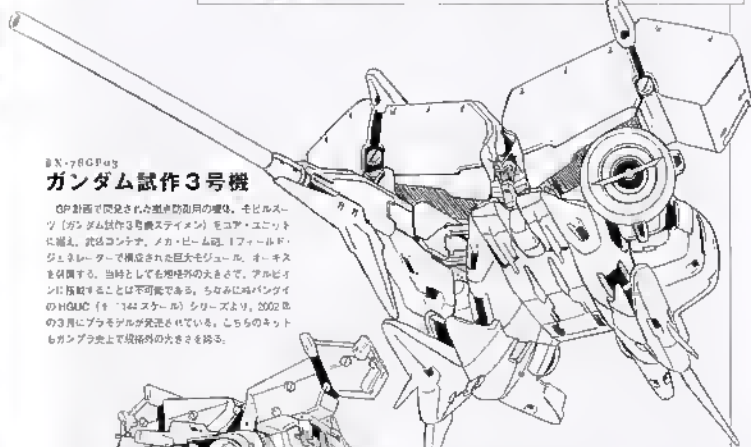
↑(209頁)

★ビーム・ライフルはガンダム試作1号機と同型のものを使用している。フォールディング・バズーカとシールドはガンダム試作3号機固有装備である。

RX-78GP03

ガンダム試作3号機

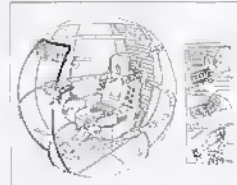
GP計画で開発された機体防衛用の機体。モビルスーツ（ガンダム試作3号機ステイメン）をコア・ユニットに組み、武器コンテナ、メガ・ビーム砲、1フィート・ジェネレーターで構成された巨大モジュール。オーキスを開発する。当時としては地球外の大々として、アルビオンに搭載することは不可能である。ちなみに機体バリエーションのHGUC（1/144スケール）シリーズより、2002年の3月にプラモデルが発売されている。こちらのキットもガンダム史上で規模の大きさを誇る。



アルビオンとの対比



コクピット



コア・ブースターII インターセプトタイプ

コア・ブースターのバリエーションタイプ、全ペー
ジのジェット・コア・ブースターとも共通コア・ブ
ースターに近い形状で、ビーム兵器を搭載し大気圏
から落下してくる敵を迎撃するに投入された。MS
IGLOOシリーズの「所収特別版」の第1巻「シャッ
ロー上空に飛来を見たり」に登場した。

三视图

MS IGLOOシリーズは、2作目
の「重力戦線」に於いて、全編
3DCGで描かれている初演作品で、
そのなか、3台のアニメーション作
品も描ききったほか、設定画が記
されている。このコア・ブースター
も例外は不慮な例外ではないが、
機体構造をわかりやすく示す
ために描かれているのだ。

ゲルバガンタンク

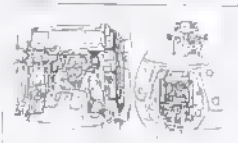


RX-78

量産型ガンタンク

RX-78ガンタンの専用タイプ、型式番号は変わ
っていないが、完全に自動制御システムを搭載する以
外、名称も変更されている。それなりの改造が施され
たように、オープニングなどでは、同様に改造した
MS部隊のガンタンクも見られる（上はその設定画）。

ボールK型のコックピット



RX-78

ボールK型

強襲前に急襲部隊（通称、50キャリバー）を擁
したボールのバリエーション。サーチライトやウェン
チなども装備しているのが特徴。第1巻「二人だけの
戦い」冒頭で、ザク軍機動隊をウイングヴァイサーで格
闘する際に登場した。あそびは、シローとアイナの
出会いをもたらした機体。さしずめのキュービッド
ボールといったところだろう。

スマート爆弾



ジェット・コア・ ブースター

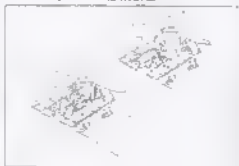
コア・ブースターのバリエーション、とはい
え、本
機はコア・ブースターと違い、名称が示すとおりジ
ェット機、爆弾や地雷などに用いられた特殊機体で
ある。かなりの数の量産され、宇宙アジア戦線などに
投入されている。

RX-78

フィッシュアイ

RX-78ボールの方向性。両側の巨大なク
ローカーと両面の推進器が特徴。強襲前
のキャノン砲は、低空を飛行する機動式ロング
スピアに搭載されている。宇宙コミックス
版の「MS IGLOO 666」[ガンダムエース・
典川書店刊]の「両面に電撃（たてず）の」
に登場している。

サラミス級ボール懸架装置

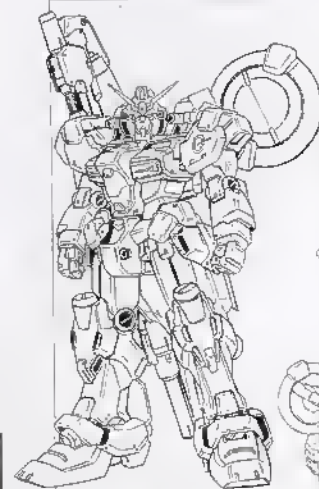


RX-78

ボール

ジオン公軍の歴史に埋もれてしまった今兵器の
活躍を待った MS IGLOO シリーズ、語の主旨はジオ
ン公軍だが、地球軍の機体も多く登場する。中でも
ボールにバリエーション数は多く、ここに掲載した
のは、11年戦争版[第1巻]（科通社に収録）に
て大活躍をみせるシャークトゥースのボールと、オー
ルの戦で活躍した機体。

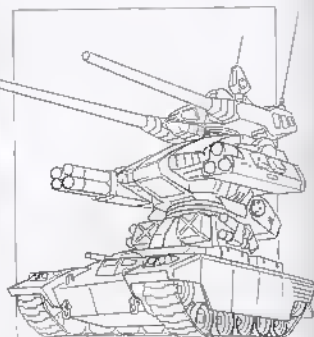
宇宙画面上では、矢の形のものにも3
DCG上のフレームとアーミングした熱
度で示される。そして、上のものが正
に本機。



RX-78GP-00

ガンダム試作0号機(プロッサム)

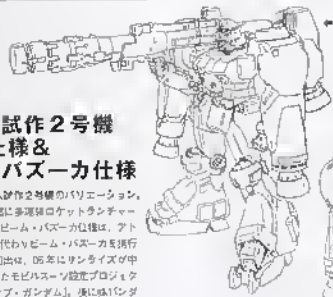
GP試作で作られた各ガンダムの試作機にあたる。コア・バースターとの合体が可能な高機動機体だった。だが、機体そのものは月面での試験により欠陥している。道迷などを中心に展開されることが多い「HMS」だが、中でも本機は一番の困難に陥ったものかもしれない。その初回は「月刊機動戦艦マガジン」の02年6月号。



RX-78GP-00 ガンタンクⅡ

ガンタンクの汎用能力を強化したバリエーション。衛星型ガンタンクにはガンタンクの面影が残っているが、本機は銃塔面が強化されていることもあり戦車車輪軸となっている。一機の出撃回数とも異なるが、ガンキャノン重装型機「Zガンダム」に登場していることから、それなりに使えたのかもしれない。

コア・バースター



RX-78GP-00a

ガンダム試作2号機 MLRS仕様& ビーム・バズーカ仕様

どちらもガンダム試作2号機のバリエーション。MLRS仕様は有線型に多連発ロケットランチャーを装備している。ビーム・バズーカ仕様は、アトミック・バズーカに代わりビーム・バズーカを採用したタイプ。その初回は、05年にサンライズが中心となって発表された「モビルスーツ設定プロジェクト「ハル・ミー・オブ・ガンダム」」後に「ガンダム」より約2年2月HGUJGのプラモデルが発売されている。

▶ビーム・バズーカ仕様

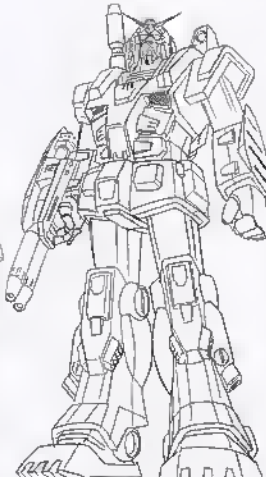
▶MLRS仕様



RX-78-1

フルアーマーガンダム

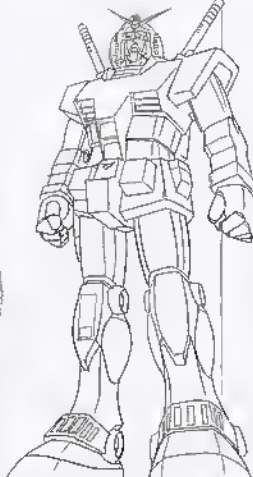
地球と宇宙の兵隊開発計画の一つであるFSSHS計画で開発された機体。本計画はRX-78ガンダムの強化プランとされる。その中の一つとしてガンダムに増設装甲と武装を追加している。計画内の正式名称はガンダムフルアーマータイプ。他にもフルアーマーバリエーションなどといわれるFSSHS計画だが、アルファベットが同様の意味なので、その詳細は不明である。



RX-78-1

プロトタイプガンダム

「RX-78-1」の1機。戦艦やアングラーなどの戦艦が来る以外、RX-78-2をガンダムと似た形状である。また、ビーム・ライフルもハンドショットガン式を採用している点が違っている。RX-78-1目標機が製造されたが、後にRX-78-2へ改造されたという（伝説あり）。デザインの名はガンダムの初期版で、それをMSVに盛り込んだものである。

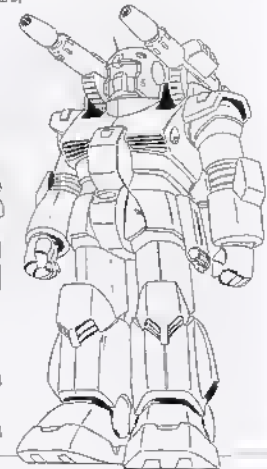


ビーム・キャノン被弾時

RX-78-1

ガンキャノン重装型

ガンキャノンのバリエーション。機体はビーム・ライフルと対戦艦に特化した機体。武装や機体などの強化が図られている。通常のガンキャノンとは異なるが、それに似ている。ガンキャノンも強化された。ビーム・キャノンへの機体も可動で、その数は約774と4と同様に機が1門になる。後に「Zガンダム」でテスト出演をしている。



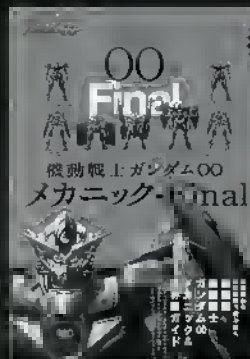
名称	型式番号	全高 (mm)	全幅 (mm)	全重量 (kg)	主推進機 (台)	ジュブレーション (出力: W)	コアスピン (周/分)	エンジン 可変出力 (W)	全出力 (W)
ガンダム	RX-75-2	18.0	43.4	60	1	1,380	55,500	5,700	ガン、ビームライフル 専用
ガンキャノン	RX-77-2	17.5	51.0	70.0	1	1,350	61,800	6,800	ガン、ビームライフル 専用
ガンタンク	RX-75	15.8	56.2	80.0	87B	-	88,000	-	ガン、ビームライフル 専用
アレックス	RX-78NT-1	18.0	40.9	72.5	1,420	-	174,000	6,900	ガン、ビームライフル 専用
ガンキャノン量産型	RX-77D	17.5	51.0	-	1,419	-	93,500	6,700	ガン、ビームライフル 専用
改良型ガンダム	RX-79 [G]	18.0	33.8	-	1,350	-	52,000	-	ガン、ビームライフル 専用
ガンダムEz8	RX-79 [G] Ez-8	18.0 (推定)	52.8 (推定)	-	1,360	-	-	-	ガン、ビームライフル 専用
量産型ガンタンク	RX-75	15.9	56.0	-	-	-	-	-	-
陸戦仕様型 ガンタンク	RX-44-0	13.7	-	-	-	-	-	-	ガン専用
プロトタイプ ガンダム	RX-78-1	18.0	43.3	-	-	-	-	-	ガン、ビームライフル 専用
G-3ガンダム	RX-78-3	18.0	47.2	-	-	-	-	-	ガン、ビームライフル 専用
フルアーマー ガンダム	FA-78-1	18.0	42.5	-	-	-	-	-	-
ガンキャノン改良型	RX-77-3	17.5	58.6	-	1,380	-	62,200	-	ガン、ビームライフル 専用
ガンキャノンII	RX-77-4	18.0	52.7	-	-	-	-	-	-
ガンタンクII	RX-75-1	15.2	58.4	-	221	-	-	-	ガン専用
ヘビーガンダム	FA-78-2	18.4	52.2	-	-	-	-	-	-
ガンダム4号機	RX-78-4	18.0	80.7	85.51 (比・ムラン・ 1号機)	1,550	-	70,500	6,190	ガン、ビームライフル 専用
ガンダム5号機	RX-78-5	18.0	80.5	-	1,480	-	70,500	6,190	ガン、ビームライフル 専用
ガンダム6号機	RX-78-6	18.0	84.6	-	1,480	-	70,500	5,900	ガン、ビームライフル 専用
ガンダム7号機	RX-78-7	18.3	78.7	-	1,670	-	70,900	6,130	ガン、ビームライフル 専用
フルアーマー ガンダム7号機	FA-78-3	18.3	-	-	-	-	-	-	ガン、ビームライフル 専用
ビタシー	RX-78XX	-	-	-	-	-	-	-	-
ブルーディスティ ニー1号機	RX-78DS-1	18.5	52.8	73.0	-	-	-	-	ガン、ビームライフル 専用
ガンダム試作1号機	RX-78GP1	18.0	36.7	65.0	1,750	-	108,000	-	ガン、ビームライフル 専用
ガンダム試作1号機 フルバーニアン	RX-78 GP1FB	18.5	43.2	74.9	2,045	-	234,000	-	ガン、ビームライフル 専用
ガンダム試作2号機	RX-78 GP2A	18.5	54.5	83.0	1,360	-	155,200	-	ガン、ビームライフル 専用
ガンダム試作3号機	RX-78GP3	36.5	226.4	433.1	38,900	-	2,865,000	-	ガン、ビームライフル 専用
ガンダム試作3号機 ステイモン	RX-77 GP03S	18.0	41.6	70.0	2,900	-	188,800	-	ガン、ビームライフル 専用

[illegible][illegible]

ルボウノ・城代将士ガムシロ(02)のボチ、1797年の戦国。カサネ・御前将士ガンダム 第04話・金力・戦和将士ガンダム M&Iブーム 金田日朗 (03)→増野将士ガンダム(06)

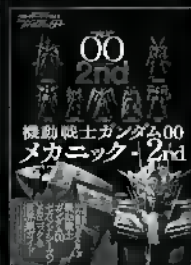
ルボウ・将を志す所望はエ・バーン・ミッソ間・将ノ 空用ノ事トはセウ・シ原ノ事ヲ告げて、

**グレートメカニックス&
関連書籍シリーズ**

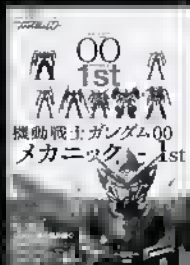


グレートメカニックススペシャル2011
機戦戦士ガンダム00
メカニックス・F [100]

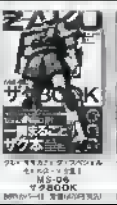
「機動戦士ガンダム00」に登場した
モビルスーツをはじめとした
メカたちを徹底解説！



機動戦士ガンダム00
メカニクス・2nd



ザロー・メカニックススペシャル2008
機動戦士ガンダム00
メカニックス・1st



『機動戦士ガンダムUCメカ
6月下旬発売予定』

※ バックナンバーをご希望の方は、お近くの書店にご注文ください。

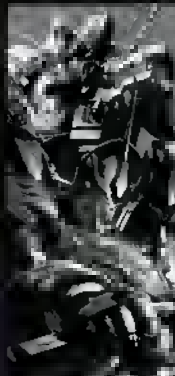
双 葉 社

〒162-8540
東京都新宿区東五軒町3-28
☎ 03-5261-4818 (営業)
<http://www.kojibasho.co.jp/>
(32職種の書籍・コミック・ムックが買えます)

※要領・エピソード、場面・FAX・はがきでもご購入いただけます。ブックサービス（お電話：9-2300）

- 電話 : 0120-29-9625 (携帯電話の方は 03-6739-0711)
● FAX : 0120-29-9635
● はがき 〒174-8790 板橋区板橋 5-1-1 板橋西郵便局 5号 郵便箱72号 ブラックサービス部

いずれの場合も「社名(双葉社)・タイトル・誤入冊数・定価および住所、氏名、電話番号」をお知らせください。
合計1,500円(税込)以上ご注文の場合は、送料(300円)が無料となります。また前払いの場合、手数料(お申し
込み1冊につき初年度まで一冊10円)がなくなります。



2012 SPRING
GREAT MECHANICS.
DX20 超サイズ
定価980円(税込)
グレートメカニクス.DX20

機動戦士
ガンダムSEED
HDリマスター・
プロジェクトの真実と、
10年を迎えたその運命を探る

虎胆龍威 TIGER & BUNNY
 艾文・卡特森 AD
 アクションリボン EVOL

経済政策 米軍削減やマニフェスト1921

INTERVIEWS
張國榮接受《東方日報》專訪



DX17 85サイズ
定価9800円(税別)
グレートメカニクス, DX17

アナハイム製
ガンダム

「機動戦士ガンダムUC」
古橋一浩監督インタビュー

- 11月 THE GREAT RUNNY
[SYAR DRIVE] 雲のたぐい
劇場版「マクロスF」ヨリノフ
12月 勇者シリーズ第20作
元と角田「勇者エクスパート」
12月 勇者シリーズ第20作



3211 1211MM
GREAT MECHANICS.
DX18 B5サイズ
32898041(12.2)
グレートメカニクス、DX18

連邦軍
主力MS考察

◎ 骨戦士ガンダムUC
度々から続刊く「UC」の

- ・ 機動戦士ガンダム AGE
[AGE] が明日開く
モバイルスーツ新時代
- ・ (1) GUNPLAのNEW
ノガニクと世界を知る
- ・ (新刊) のファブナー
HEAVEN AND EARTH
INTEKUIWE
資料館 河合正太

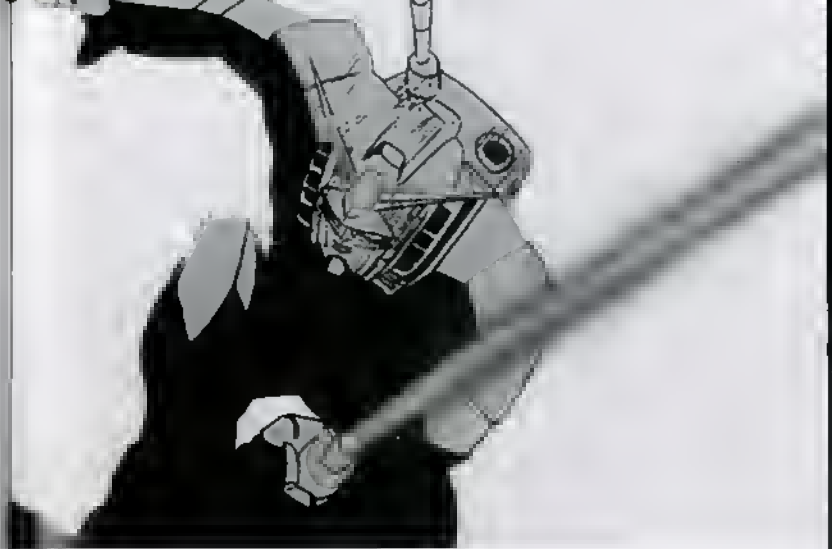


2011年7月18日
GREAT MECHANICS.
DX19 B5サイズ
定価580円(税別)
グレートメカニックスDX19

機動戦士
ガンダムUC

エピソード4
メカシーン大解析！

- ・「TIGERSBUNNY」
G5と本編との高度な融合を誇る
- ・「新助け士ガンダムAGE1」
「オウガリットセブン」
- ・INTERVIEWS
[ザ・コクピット] 松と雪
[サイバーフォーミュラ] シリーズ
高橋昌宏



編集
オフィスJ自
西田幸夫
豊田・国行
横本あゆみ

飯津
 河合宗之
 星★昌介
 市々谷ハジメ
 矢吹明紀
 関之誠一 監
 やすゆきゆたか
 ニック木村

要紙イラスト
鈴下直樹

本文イラスト
森下直帆
監修

Robographer

Art Director
岡本浩希
Dill Products?

Designer
惠思電子
則明和電子
賴坤銘等
(i!) Products)

スーパースパイザ—
山崎陽

本文写真
百種試問

協力
株式会社ライズ

双葉社MOOK
グレートメカニクス・スペシャル
モビルスーツ全集⑤

RX-78ガンダム&
V作戦BOOK

2012年6月10日发行

那覇市
 発行人
 発行所
 二之宮啓
 郡役所生
 株式会社那覇社
 〒162-8540
 東京都港区東五反田3-29
 営業部03-5251-4318
 編集部03-5251-4889
 http://www.kubobooks.co.jp/
 内容11の雑誌。コミック、ムック等販売

印刷所 三晃印刷株式会社
製本所 株式会社西村製本工場

ホーテ、記丁の場合は逆列両部曲線と取り替へました。(新作図) すべて改訂し直した。ただし、
①富田で記入したものに^②は取り替へてきました。
③52頁1-482② (新作図)
④52頁の2②。スキャン。デジタリ化時の画質調整、
矢印は著作権法上での例外を除き直してあります。本
書は改訂最終稿の両面に併結してスキャンデジタ
リ化すること、たとえば富田で富田での利用でも作
品が消失しないこと、
※定型は①に示してあります。

© 株式会社・フタバインクス
© FUTABASHA 2012 Printed in Japan

ISBN 978-4-575-47465-3 C9475